

2021年3月17日

報道関係各位

 SMBCコンシューマーファイナンス株式会社  
 広報CSR部：西山・三浦  
 (問合せ先:03-3543-7360)

## 30代・40代の金銭感覚についての意識調査 2021

30代・40代の貯蓄額の平均は283万円、コロナ禍前の前回調査から91万円増加、40代では162万円の大幅増加

「コロナ禍前より残業時間が減った」30代・40代有職者の22.5%、「収入が減った」では31.4%

コロナ禍で副業機会が減少「副業をしている」30代・40代有職者の22.6%、前回調査から11.5ポイント下降

「年収がどんなに多くても、出産・子育てをしたいと思います」30代・40代の23.5%、前回調査から5.8ポイント上昇

40代有職女性が管理職になってもいいと思える年収は平均998万円、前回調査から247万円の大幅増加

「今までに、子どものマネートラブルで困ったことがある」親の9.0%

経験した子どものマネートラブル TOP2「友だちのものを壊してしまい弁償した」「友だちとのお金の貸し借りでもめた」

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社(代表取締役社長:金子 良平、<http://www.smbc-cf.com/corporate/>、サービスブランド「プロミス」)は、2021年2月3日~4日の2日間、30歳~49歳の男女を対象に「30代・40代の金銭感覚についての意識調査2021」(\*)をインターネットリサーチで実施し、1,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

\*前回調査である「20代・30代・40代の金銭感覚についての意識調査2020」は2019年12月に調査(2020年3月12日発表)しております。

- TOPICS -

### 【30代・40代のお小遣い・貯蓄事情】 P.3~P.7

- 30代・40代の毎月のお小遣いは平均30,192円、コロナ禍前の前回調査から3,307円増加
- 30代・40代の貯蓄額の平均は283万円、コロナ禍前の前回調査から91万円増加、40代では162万円の大幅増加
- 「現在の貯蓄状況に不安を感じている」30代・40代の66.0%、40代女性では72.8%
- リタイア時にあれば安心できる貯蓄額の平均は2,550万円、前回調査から57万円増加
- 上司や先輩からおごってもらっている金額の平均は5,855円/月、前回調査から466円減少
- 部下や後輩におごっている金額の平均は4,547円/月、前回調査から2,463円の大幅減少

### 【30代・40代の消費意識と消費実態】 P.8~P.23

- おひとりさま消費をする30代・40代は80.4%、前回調査から19.8ポイントの大幅上昇
- 30代・40代のおひとりさま消費額の全体平均は9,637円/月、前回調査から4,201円増加
- 「親しい人と楽しく過ごすためにお金をかけている」30代・40代の70.5%、かけている金額の全体平均は8,438円/月
- 「自宅時間を充実させるためにお金をかけている」30代・40代の40.9%、かけている金額の全体平均は2,255円/月
- 30代・40代がストレス発散のためにかけている金額の全体平均は4,384円/月、前回調査から539円増加
- ストレス発散消費の矛先 TOP5「スイーツ・お菓子」「外食」「お酒」「旅行」「漫画」
- ゲーム課金に対する30代・40代の意識「お金を使わないと楽しく遊べない」12.7%
- 「ほしいアイテム・キャラを手に入れるためのお金は惜しみたくない」30代・40代の8.1%
- 30代・40代のゲーム課金実態「ゲーム課金をしている」30代・40代の9.5%、かけている金額は平均4,059円/月
- 「ゲーム課金に後悔したことがある」30代・40代男性の21.8%

- ≫ 30代・40代が考える“いい買い物” TOP2「将来の役に立つものを買う」「買って満足できるものを買う」
- ≫ 「サブスクサービスを利用したい」30代・40代の27.5%、30代男性では35.2%
- ≫ 「サブスクサービスにお金をかけている」30代・40代の29.1%、前回調査から5.5ポイント上昇
- ≫ 30代・40代がサブスクサービスにかけている金額の全体平均は952円/月、前回調査から260円増加
- ≫ 「自己投資にお金をかけたい」30代・40代の48.0%、「自分磨きにお金をかけたい」30代・40代の51.5%
- ≫ 「自己投資にお金をかけている」30代・40代の28.1%、かけている金額は平均6,497円/月
- ≫ 「自分磨きにお金をかけている」30代・40代の53.3%、かけている金額は平均7,052円/月
- ≫ 「コロナ禍で支出額が増えたものがある」59.9%、支出額が増えたものTOP2は「水道光熱費」「食品・飲料費」
- ≫ 「コロナ禍で支出額が減ったものがある」69.7%、支出額が減ったものTOP2は「外食費」「旅行・レジャー費」
- ≫ コロナ禍が落ち着いたら支出額を増やしたいもの「旅行・レジャー費」がダントツ
- ≫ 30代・40代のキャッシュレス決済利用実態「QRコード決済」の使用率は59.9%、前回調査から15.2ポイント上昇

#### 【コロナ禍と収入事情】 P.24～P.25

- ≫ 「コロナ禍前より残業時間が減った」30代・40代有職者の22.5%、「収入が減った」では31.4%
- ≫ 「コロナ禍前より家事時間が増えた」30代・40代有職者の40.4%
- ≫ アフター5消費の冷え込み鮮明「コロナ禍前より仕事後の消費が減った」30代・40代有職者の36.6%
- ≫ コロナ禍で副業機会が減少「副業をしている」30代・40代有職者の22.6%、前回調査から11.5ポイント下降

#### 【ライフイベントと収入事情】 P.26～P.29

- ≫ 30代・40代の半数以上が結婚しようと思えるのは「年収500万円」
- ≫ 30代・40代の半数以上が1人目の出産・子育てに前向きになるのは「年収600万円」
- ≫ 「年収がどんなに多くても、出産・子育てをしないとしない」30代・40代の23.5%、前回調査から5.8ポイント上昇
- ≫ 30代・40代の半数以上が自家用車を購入しようと思えるのは「年収500万円」
- ≫ 30代・40代の半数以上が住宅を購入しようと思えるのは「年収700万円」

#### 【就業意識と収入】 P.30～P.33

- ≫ 40代有職男性が管理職になってもいいと思える年収は平均1,042万円、前回調査から81万円減少
- ≫ 40代有職女性が管理職になってもいいと思える年収は平均998万円、前回調査から247万円の大幅増加
- ≫ 「いつかはフリーランスとして働きたい」30代・40代有職男性の29.5%、前回調査から7.1ポイント下降
- ≫ 「いつかは転職したい」30代・40代有職女性の49.4%、前回調査から8.1ポイント下降
- ≫ 「70歳以降も働いていると思う」30代・40代有職者の65.5%  
働いていると思う理由 1位「経済的にゆとりのある生活をしたい」「働かないと生活費が足りないと思う」

#### 【マネートラブルの経験】 P.34～P.36

- ≫ 「今までに、マネートラブルを経験したことがある」30代・40代の22.8%、30代男性では26.8%  
経験したマネートラブル 1位「同僚や知人とお金の貸し借りでもめた」「職場や外出先でお金を盗まれた」
- ≫ 「今までに、子どものマネートラブルで困ったことがある」親の9.0%  
経験した子どものマネートラブル TOP2「友だちのものを壊してしまい弁償した」「友だちとお金の貸し借りでもめた」
- ≫ 子どもに金融教育で学んでほしいこと「お金の大切さ」がダントツ、2位「生活設計」3位「お金の役割」

## アンケート調査結果

**【30代・40代のお小遣い・貯蓄事情】**

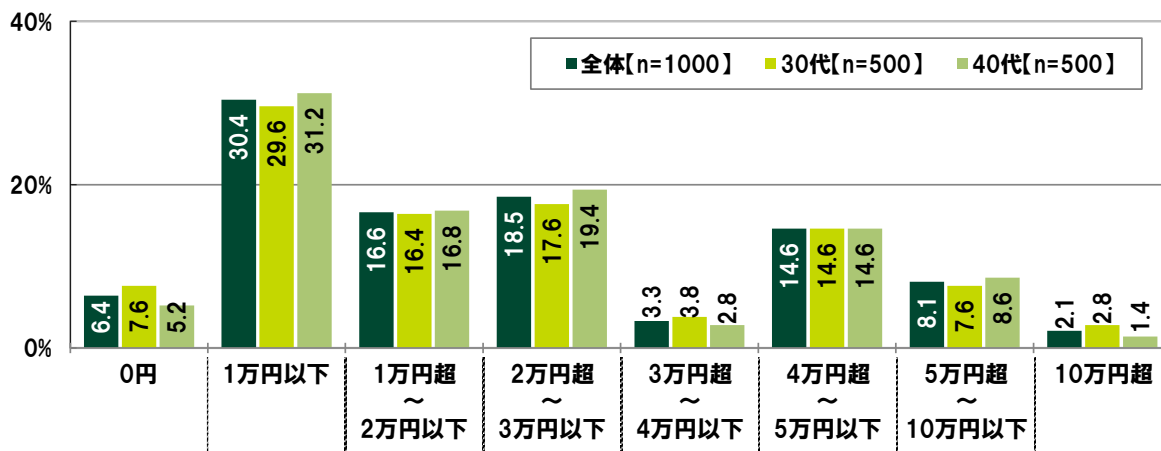
≫ **30代・40代の毎月のお小遣いは平均 30,192 円、コロナ禍前の前回調査から 3,307 円増加**

全国の 30 歳～49 歳の男女 1,000 名(全回答者)に対し、毎月自由に使えるお金はいくらあるか聞いたところ、「1 万円以下」(30.4%)に最も多くの回答が集まったほか、「2 万円超～3 万円以下」(18.5%)や「1 万円超～2 万円以下」(16.6%)、「4 万円超～5 万円以下」(14.6%)にも多くの回答がみられ、平均は 30,192 円でした。

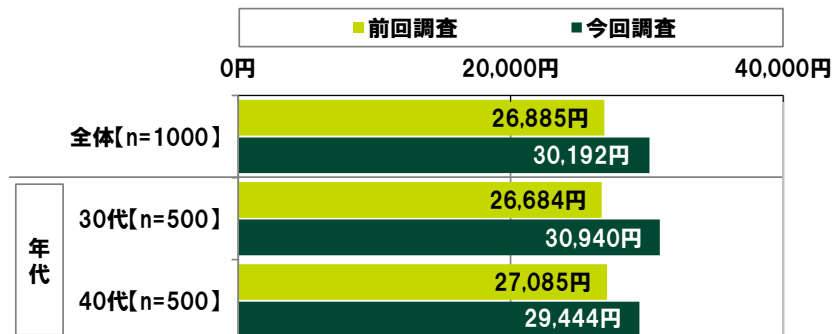
前回の調査結果(※1)と比較すると、毎月自由に使えるお金の平均は 3,307 円増加(前回調査 26,885 円→今回調査 30,192 円)しました。年代別にみると、30 代では 4,256 円増加(前回調査 26,684 円→今回調査 30,940 円)、40 代では 2,359 円増加(前回調査 27,085 円→今回調査 29,444 円)しました。コロナ禍で生活様式が一変し、お小遣い事情に変化があったという人が多いのではないのでしょうか。

※1:SMBC コンシューマーファイナンス「20 代・30 代・40 代の金銭感覚についての意識調査 2020」より

Q.毎月自由に使えるお金はいくらあるか？（数値入力回答：\_\_\_円くらい）



毎月自由に使えるお金の平均額の変化



**>> 30代・40代の貯蓄額の平均は283万円、コロナ禍前の前回調査から91万円増加、40代では162万円の大幅増加**

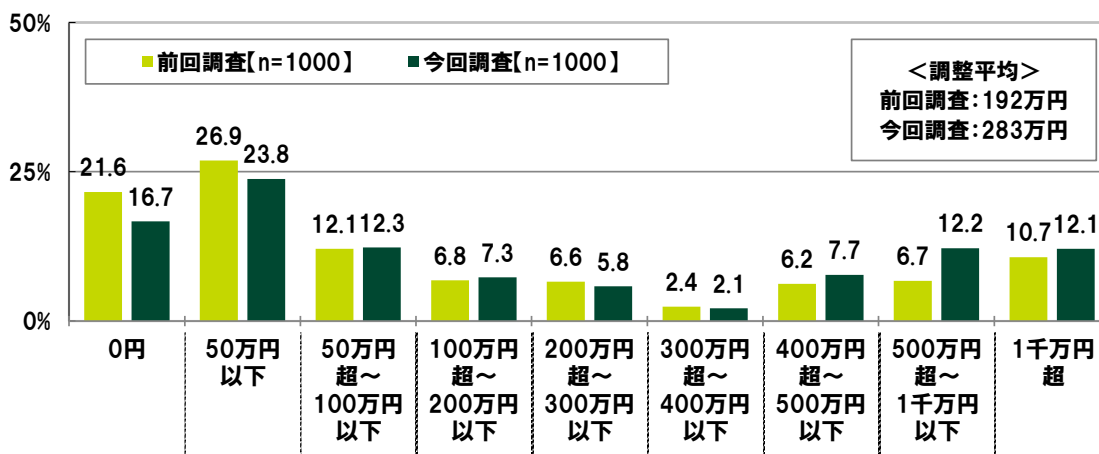
次に、貯蓄状況について質問しました。

現時点で、どのくらいの貯蓄ができているか聞いたところ、「50万円以下」(23.8%)に最も多くの回答が集まったほか、「0円」(16.7%)や「50万円超～100万円以下」(12.3%)、「500万円超～1千万円以下」(12.2%)、「1千万円超」(12.1%)にも多くの回答がみられ、調整平均(※2)は283万円でした。

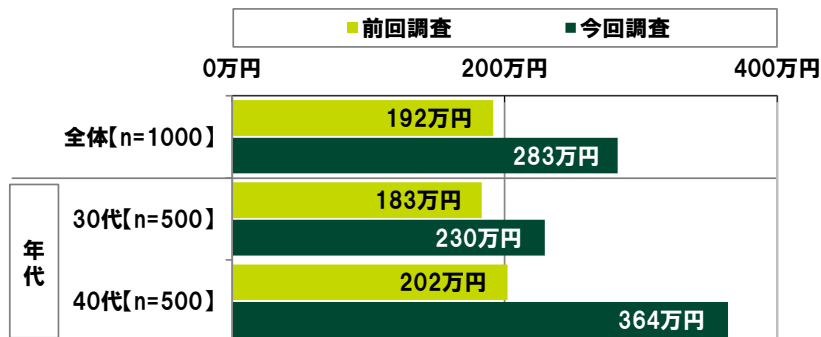
前回の調査結果と比較すると、現在貯蓄できているお金の調整平均は91万円増加(前回調査192万円→今回調査283万円)しました。年代別にみると、30代では47万円増加(前回調査183万円→今回調査230万円)、40代では162万円の大幅増加(前回調査202万円→今回調査364万円)となりました。コロナ禍のテレワーク・外出自粛による必要費用の減少や、10万円の特別定額給付金の受給、景気に対する先行き不安を受けた貯蓄志向の高まりなどの影響で、結果的に貯蓄が増えたという人が多いのではないのでしょうか。

※2: 当該設問では、上位数%のデータにみられた極端な値(貯蓄額が数億円など)の影響を除外するため、10%調整平均(上位と下位からそれぞれ10%のデータを除外して算出した相加平均)を利用しています。

Q.現在貯蓄できているお金はいくらあるか？(数値入力回答: \_\_\_万円くらい)



現在貯蓄できているお金の調整平均額の変化

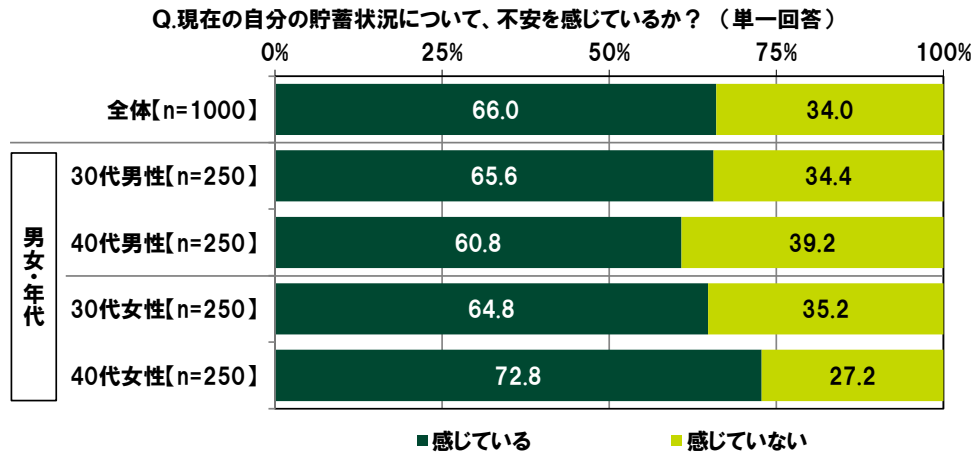


>> 「現在の貯蓄状況に不安を感じている」30代・40代の66.0%、40代女性では72.8%

自身の貯蓄に対し不安を感じている人はどのくらいいるのでしょうか。

現在の自分の貯蓄状況について、不安を感じているか聞いたところ、「感じている」は66.0%、「感じていない」は34.0%となりました。

男女・年代別にみると、不安を感じている人の割合は、40代女性が72.8%で最も高くなりました。



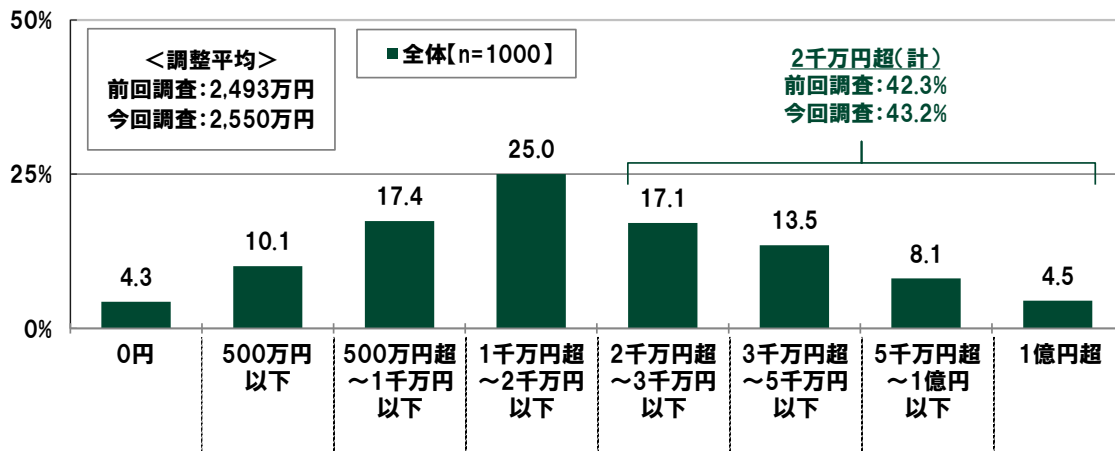
>> リタイア時にあれば安心できる貯蓄額の平均は 2,550 万円、前回調査から 57 万円増加

リタイア時にどのくらいの貯蓄があれば安心できるのでしょうか。

仕事をリタイアする年齢までに貯蓄がいくらあれば安心できるか聞いたところ、「1 千万円超～2 千万円以下」(25.0%)に最も多くの回答が集まったほか、「500 万円超～1 千万円以下」(17.4%)や「2 千万円超～3 千万円以下」(17.1%)にも多くの回答が集まり、調整平均は 2,550 万円でした。また、『2 千万円超(計)』の割合をみると 43.2%でした。

前回の調査結果と比較すると、調整平均は 57 万円増加(前回調査 2,493 万円→今回調査 2,550 万円)しました。

Q.仕事をリタイアする年齢までに貯蓄がいくらあれば安心できるか？  
 (数値入力回答：\_\_万円くらい)

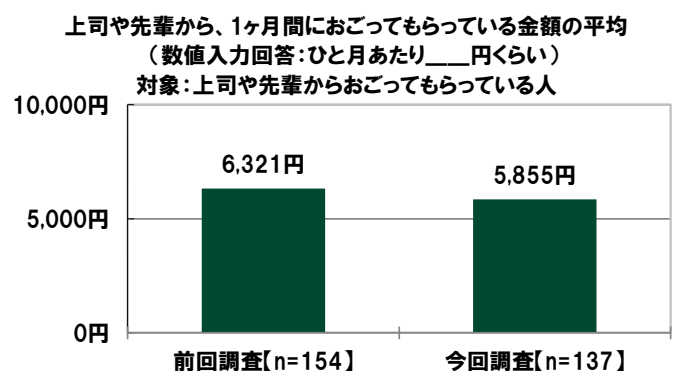
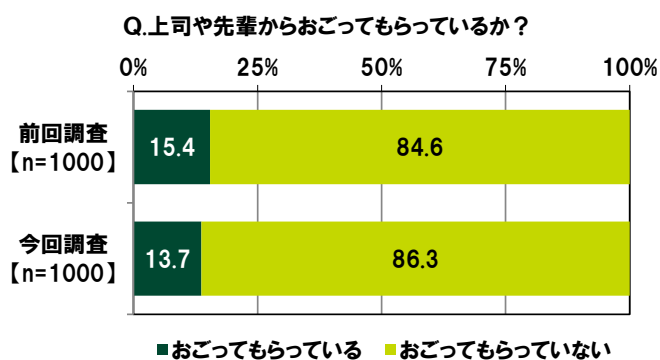


- 上司や先輩からおごってもらっている金額の平均は 5,855 円/月、前回調査から 466 円減少
- 部下や後輩におごっている金額の平均は 4,547 円/月、前回調査から 2,463 円の大幅減少

上司・先輩や部下・後輩との付き合いにおける“おごり”の状況について質問しました。

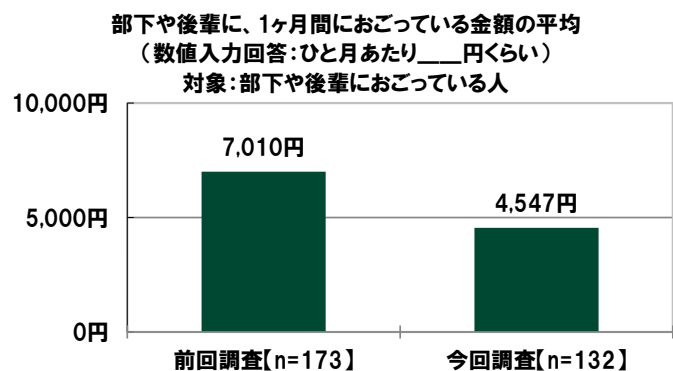
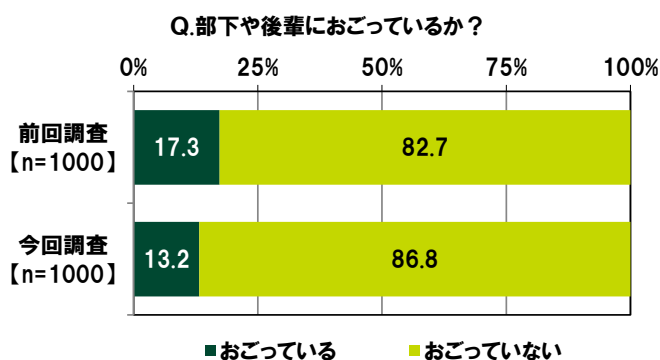
上司や先輩からおごってもらっているか聞いたところ、おごってもらっている人の割合は 13.7%となりました。また、上司や先輩からおごってもらっている人(137 名)に、1 ヶ月間におごってもらっている金額を聞いたところ、おごってもらっている金額の平均は 5,855 円でした。

前回の調査結果と比較すると、おごってもらっている人の割合は 1.7 ポイント減少(前回調査 15.4%→今回調査 13.7%)、1 ヶ月間におごってもらっている金額の平均は 466 円減少(前回調査 6,321 円→今回調査 5,855 円)しました。



他方、部下や後輩におごっているか聞いたところ、おごっている人の割合は 13.2%となりました。また、部下や後輩におごっている人(132 名)に、1 ヶ月間におごっている金額を聞いたところ、おごっている金額の平均は 4,547 円でした。

前回の調査結果と比較すると、おごっている人の割合は 4.1 ポイント下降(前回調査 17.3%→今回調査 13.2%)し、1 ヶ月間におごっている金額の平均は 2,463 円の大幅減少(前回調査 7,010 円→今回調査 4,547 円)となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためのテレワーク・会食自粛・店舗の営業時間短縮によって、就業時間後の懇親会などが激減し、部下や後輩との飲みニケーションの機会は大幅に減ったようです。



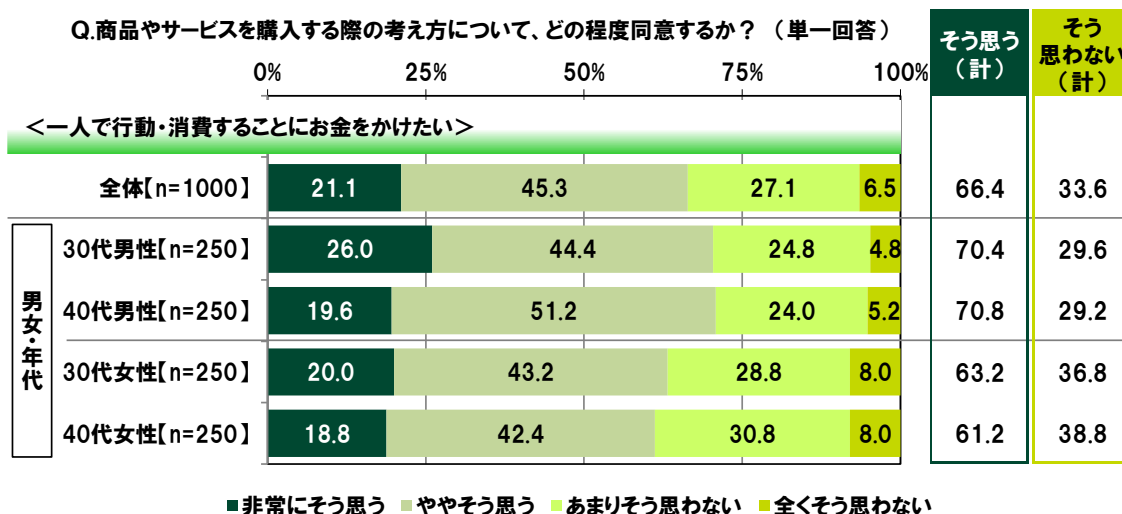
### 【30代・40代の消費意識と消費実態】

- ▶ おひとりさま消費をする30代・40代は80.4%、前回調査から19.8ポイントの大幅上昇
- ▶ 30代・40代のおひとりさま消費額の全体平均は9,637円/月、前回調査から4,201円増加

消費意識や消費実態について質問しました。

まず、全回答者(1,000名)に、一人で行動・消費することにお金をかけたいか聞いたところ、「非常にそう思う」は21.1%、「ややそう思う」は45.3%で、合計した『そう思う(計)』は66.4%となりました。

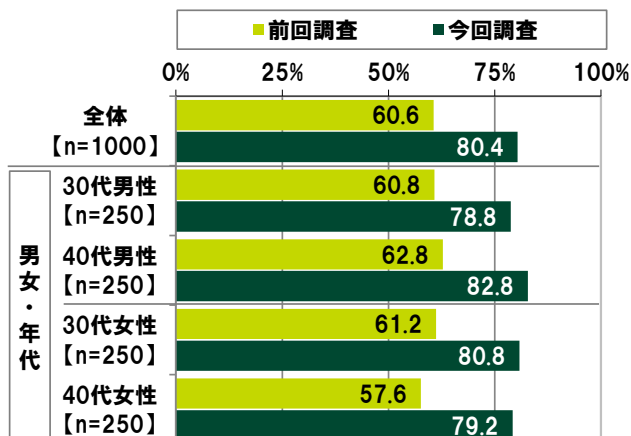
男女・年代別にみると、『そう思う(計)』と回答した人の割合は、女性と比べて男性のほうが高くなり、40代男性(70.8%)が最も高くなりました。



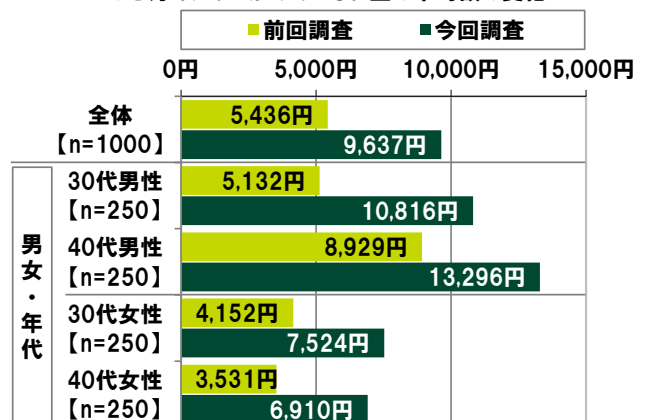
実際に一人で行動・消費することにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は80.4%で、ひと月にかけている金額の全体平均は9,637円でした。

前回の調査結果と比較すると、実際にお金をかけている人の割合は19.8ポイントの上昇(前回調査60.6%→今回調査80.4%)となり、かけている金額の全体平均は4,201円の大幅増加(前回調査5,436円→今回調査9,637円)となりました。男女・年代別にみると、かけているお金の平均は、30代男性では5,684円増加(前回調査5,132円→今回調査10,816円)、40代男性では4,367円増加(前回調査8,929円→今回調査13,296円)、30代女性では3,372円増加(前回調査4,152円→今回調査7,524円)、40代女性では3,379円増加(前回調査3,531円→今回調査6,910円)と、いずれの層でも大幅に増加しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会食など密接した会話の機会を避けようとする行動変容の結果、おひとりさま消費が急拡大している実態が明らかになりました。

一人で行動・消費することにお金をかけている人の割合の変化



一人で行動・消費すること  
ひと月あたりにかけているお金の平均額の変化



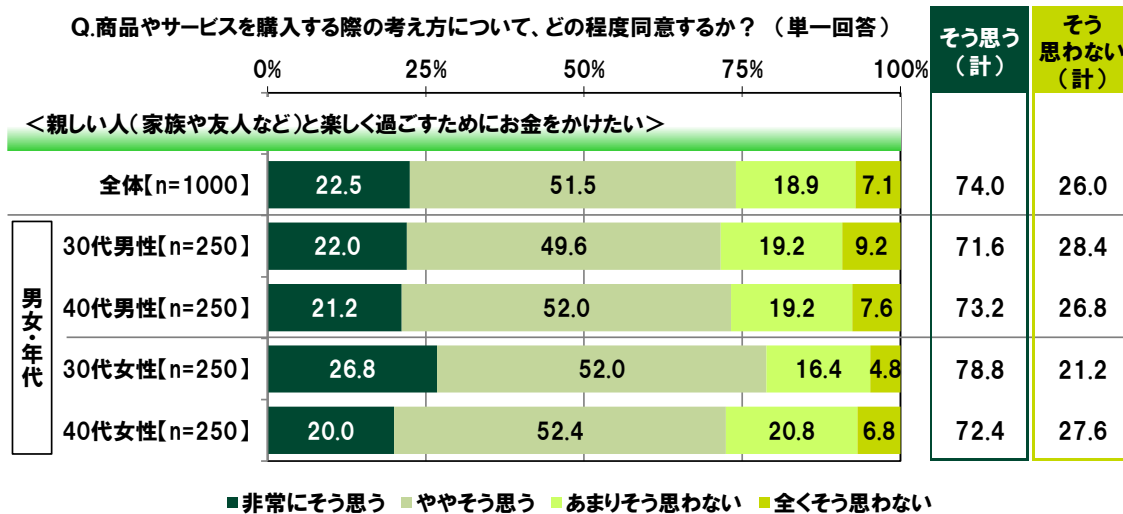


≫ 「親しい人と楽しく過ごすためにお金をかけている」30代・40代の70.5%、かけている金額の全体平均は8,438円/月

では、身近な人と一緒に過ごすための消費については、どのくらいの方が前向きに考えているのでしょうか。

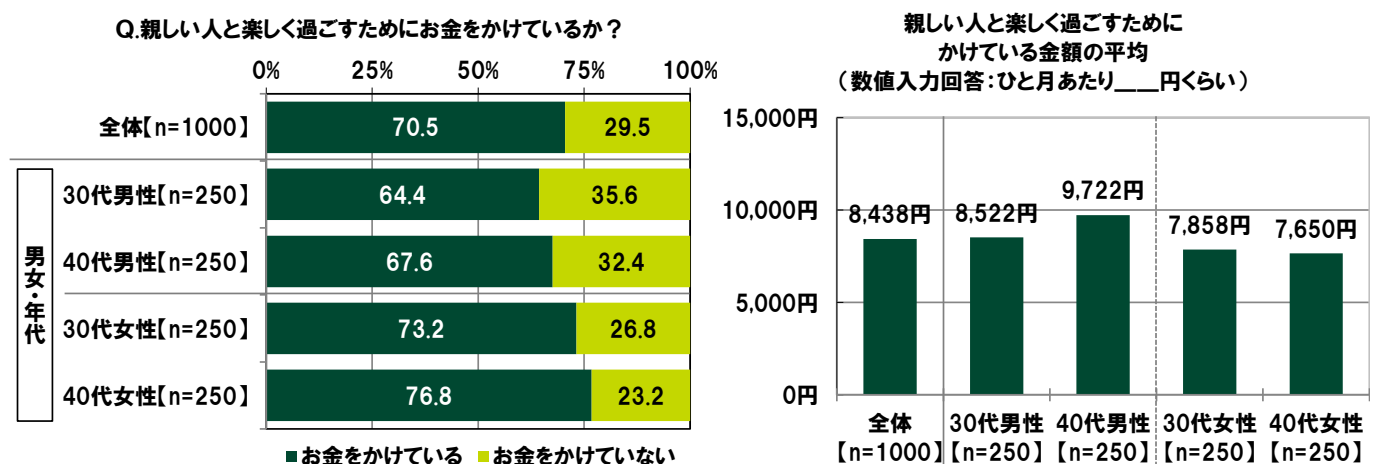
全回答者(1,000名)に、親しい人(家族や友人など)と楽しく過ごすためにお金をかけたいか聞いたところ、『そう思う(計)』は74.0%となりました。30代・40代の多くが、親しい人と充実した時間を過ごすことにお金をかけて楽しみたいと考えているようです。

男女・年代別にみると、『そう思う(計)』と回答した人の割合は、30代女性が78.8%で最も高くなりました。



実際に親しい人(家族や友人など)と楽しく過ごすためにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は70.5%で、ひと月にかけている金額の全体平均は8,438円でした。

男女・年代別にみると、お金をかけている人の割合が最も高くなったのは40代女性(76.8%)、ひと月にかけている金額の平均が最も高くなったのは40代男性(9,722円)でした。

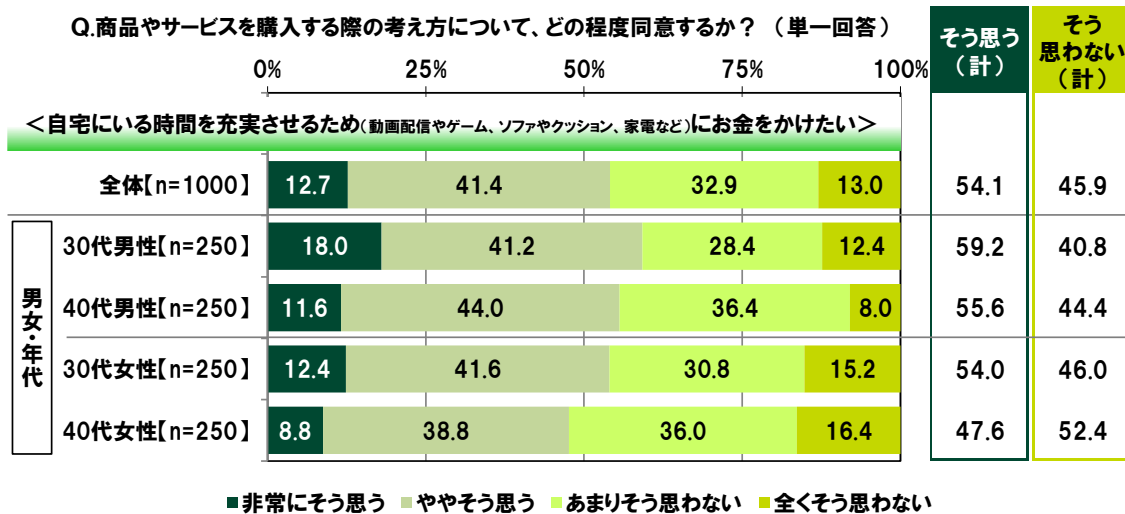


≫ 「自宅時間を充実させるためにお金をかけている」30代・40代の40.9%、かけている金額の全体平均は2,255円/月

次に、巣ごもり消費について聞きました。

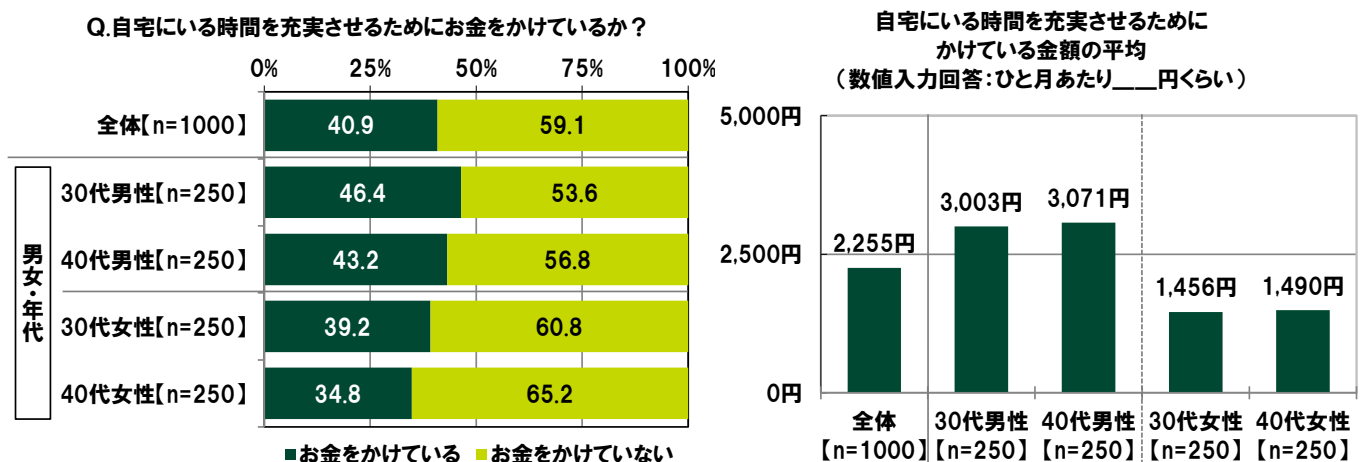
全回答者(1,000名)に、自宅にいる時間を充実させるため(動画配信やゲーム、ソファやクッション、家電など)にお金をかけたいか聞いたところ、『そう思う(計)』は54.1%となりました。

男女・年代別にみると、『そう思う(計)』と回答した人の割合は、女性と比べて男性のほうが高くなり、30代男性(59.2%)が最も高くなりました。



実際に自宅にいる時間を充実させるため(動画配信やゲーム、ソファやクッション、家電など)にお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は40.9%で、ひと月にかけている金額の全体平均は2,255円でした。

男女・年代別にみると、お金をかけている人の割合が最も高くなったのは30代男性(46.4%)、ひと月にかけている金額の平均が最も高くなったのは40代男性(3,071円)でした。

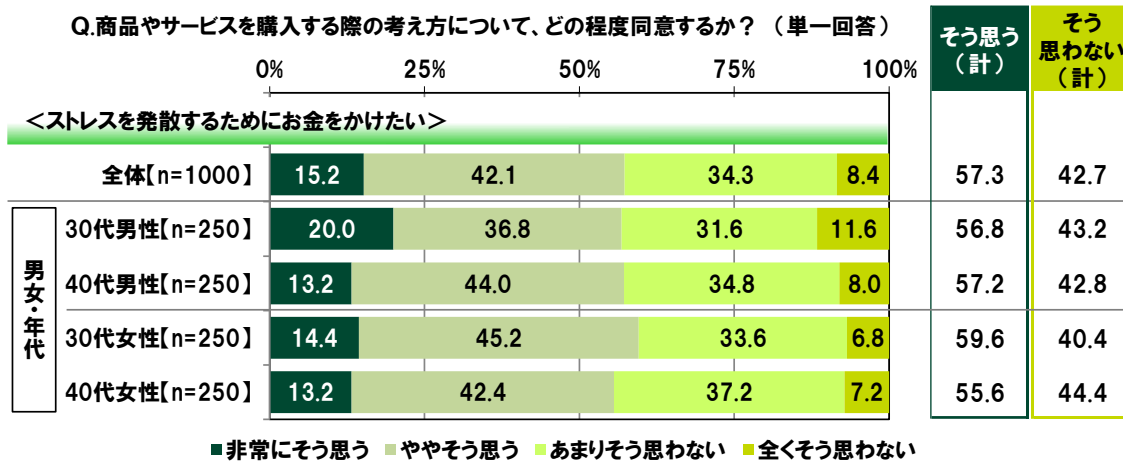


- 30代・40代がストレス発散のためにかけている金額の全体平均は4,384円/月、前回調査から539円増加
- ストレス発散消費の矛先 TOP5「スイーツ・お菓子」「外食」「お酒」「旅行」「漫画」

また、ストレス発散消費について聞きました。

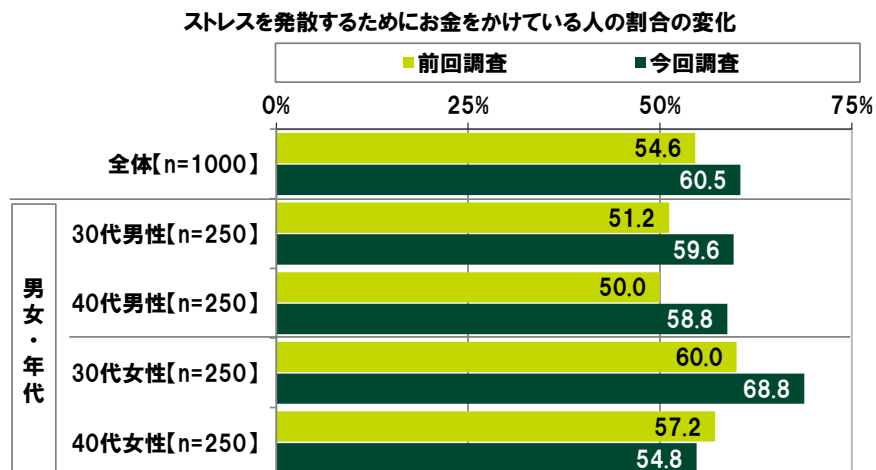
全回答者(1,000名)に、ストレスを発散するためにお金をかけたいか聞いたところ、『そう思う(計)』は57.3%となりました。

男女・年代別にみると、『そう思う(計)』と回答した人の割合は、30代女性が59.6%で最も高くなりました。



実際にストレスを発散するためにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は60.5%で、前回の調査結果と比較すると、5.9ポイントの上昇(前回調査54.6%→今回調査60.5%)となりました。

男女・年代別にみると、40代男性(前回調査50.0%→今回調査58.8%)と30代女性(前回調査60.0%→今回調査68.8%)ではいずれも8.8ポイントの大幅上昇となりました。

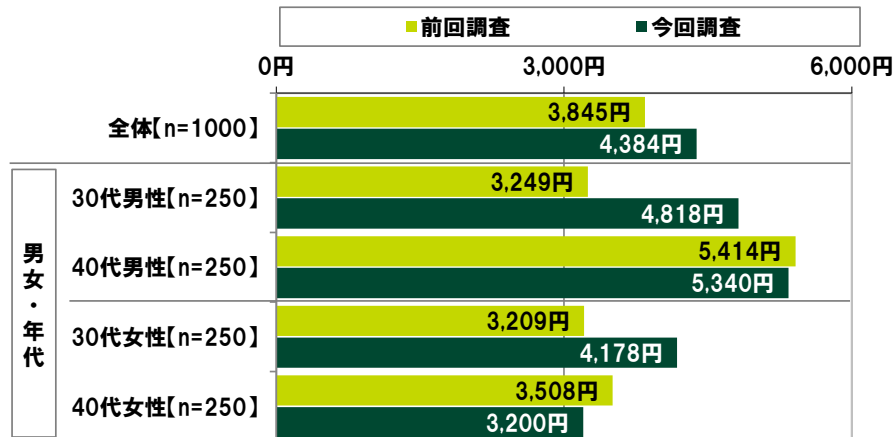


実際にストレスを発散するためにひと月にいくらかお金をかけているか聞いたところ、全体平均は 4,384 円でした。

前回の調査結果と比較すると、かけている金額の全体平均は 539 円の増加（前回調査 3,845 円→今回調査 4,384 円）となりました。

男女・年代別にみると、30 代男性では 1,569 円の増加（前回調査 3,249 円→今回調査 4,818 円）と、増加幅が最も大きくなりました。

ストレスを発散するためにひと月にかけているお金の平均額の変化



ストレス発散消費の対象はどのようなものが多いのでしょうか。

ストレスを発散するためにお金をかけている人(605名)に、どのような商品・サービスにお金を使っているか聞いたところ、1位「スイーツ・お菓子」(49.6%)、2位「外食」(39.2%)、3位「お酒」(30.4%)、4位「旅行」(26.6%)、5位「漫画」(15.5%)となりました。食やお酒のほか、旅行や漫画がストレス発散消費の対象となっているという人が多いようです。

男女別にみると、男性では 1 位「外食」(40.2%)、2 位「お酒」(36.5%)、3 位「スイーツ・お菓子」(31.4%)、女性では「スイーツ・お菓子」(67.0%)がダントツ、2 位「外食」(38.2%)、3 位「旅行」(27.8%)でした。

Q. ストレスを発散するために、どのような商品・サービスにお金を使っているか？（複数回答）

対象：ストレスを発散するためにお金をかけている人

※各上位10位までを表示

順位	全体 [n=605]	%	順位	男性 [n=296]	%	順位	女性 [n=309]	%
1位	スイーツ・お菓子	49.6	1位	外食	40.2	1位	スイーツ・お菓子	67.0
2位	外食	39.2	2位	お酒	36.5	2位	外食	38.2
3位	お酒	30.4	3位	スイーツ・お菓子	31.4	3位	旅行	27.8
4位	旅行	26.6	4位	旅行	25.3	4位	お酒	24.6
5位	漫画	15.5	5位	漫画	17.9	5位	洋服	22.7
6位	映画	15.4	6位	映画	16.9	6位	映画	13.9
7位	洋服	14.9	7位	ゲーム	15.9	6位	美容用品	13.9
8位	ゲーム	12.4	8位	銭湯	14.2	8位	ライブ・コンサート	13.6
9位	銭湯	11.4	9位	DVD	11.1	9位	漫画	13.3
10位	ライブ・コンサート	10.2	10位	カラオケ	7.1	10位	カラオケ	10.4
							ネイル・エステ	10.4

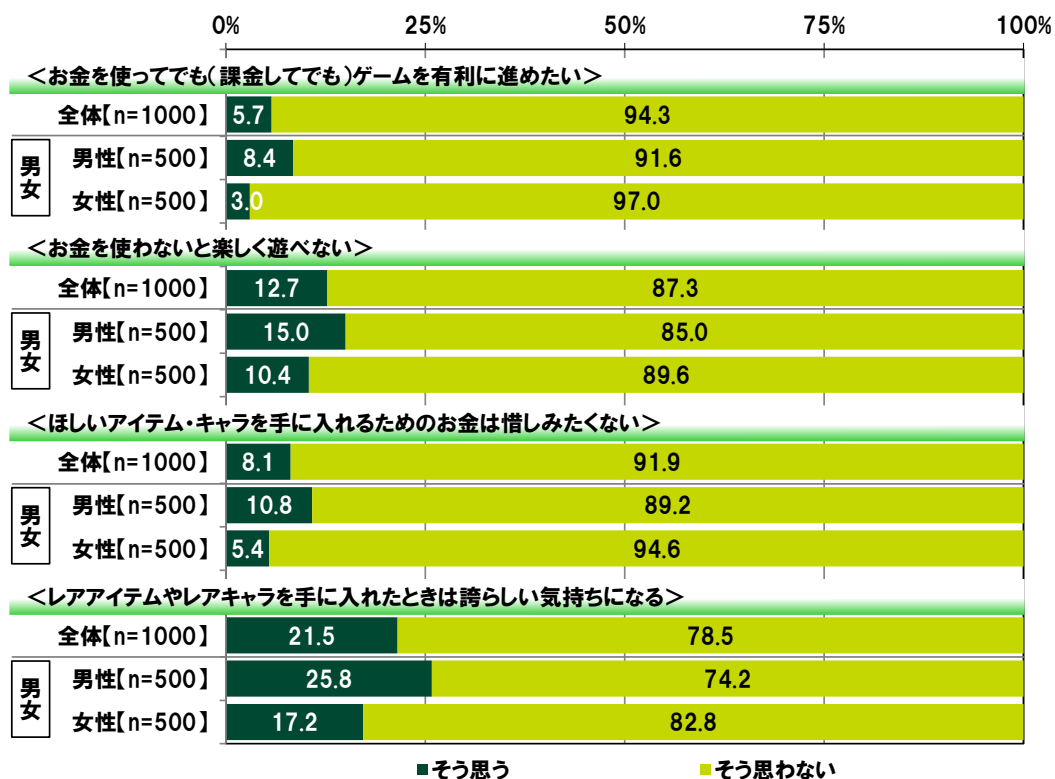
- ▶ ゲーム課金に対する30代・40代の意識「お金を使わないと楽しく遊べない」12.7%
- ▶ 「ほしいアイテム・キャラを手に入れるためのお金は惜しみたくない」30代・40代の8.1%

全回答者(1,000名)に、ゲーム消費について質問しました。

お金を使ってゲームをすることについての意識をみると、<お金を使っても(課金してでも)ゲームを有利に進めたい>では「そう思う」は5.7%、<お金を使わないと楽しく遊べない>では「そう思う」は12.7%となりました。

アイテムやキャラクターの入手についての意識をみると、<ほしいアイテム・キャラを手に入れるためのお金は惜しみたくない>では「そう思う」は8.1%、<レアアイテムやレアキャラを手に入れたときは誇らしい気持ちになる>では「そう思う」は21.5%となりました。

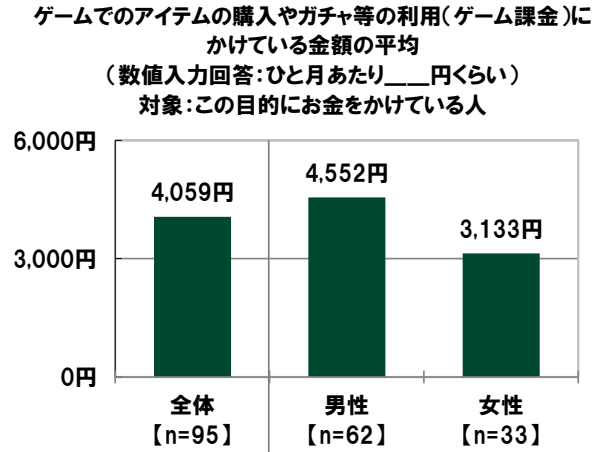
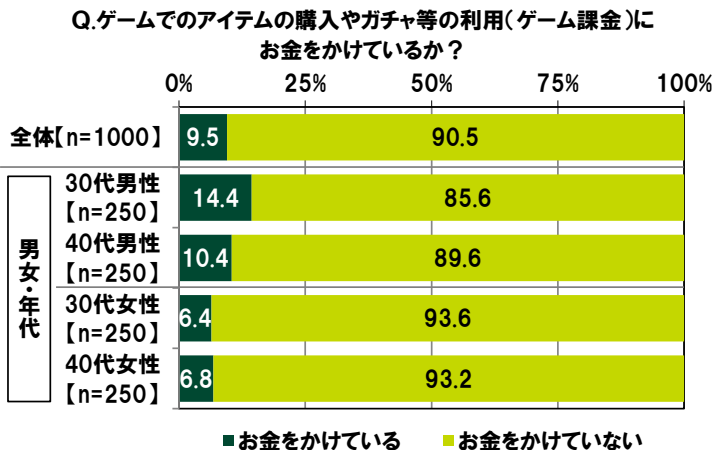
Q.ゲームに関する以下の内容について、そう思うか、思わないか？（各単一回答）



- ▶ 30代・40代のゲーム課金実態「ゲーム課金をしている」30代・40代の9.5%、かけている金額は平均4,059円/月
- ▶ 「ゲーム課金に後悔したことがある」30代・40代男性の21.8%

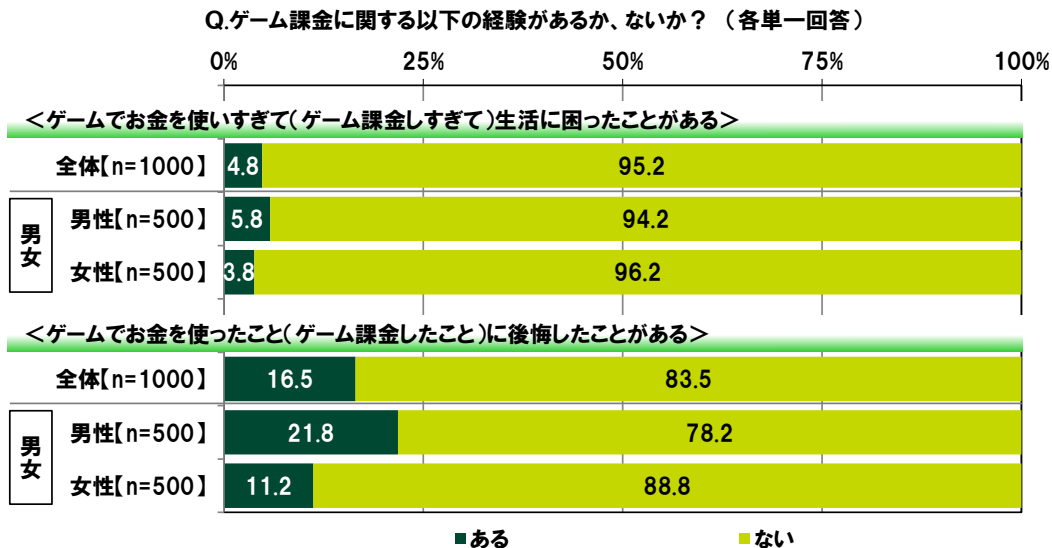
また、ゲーム課金実態について聞いたところ、<ゲームでのアイテムの購入やガチャ等の利用(ゲーム課金)>にお金をかけている人の割合は9.5%で、それらの人がひと月にかけている金額の平均は4,059円でした。

男女・年代別にみると、お金をかけている人の割合は、女性と比べて男性のほうが高くなり、30代男性(14.4%)が最も高くなりました。



さらに、ゲーム課金で失敗をした経験について聞いたところ、<ゲームでお金を使いすぎて(ゲーム課金しすぎて)生活に困ったことがある>では「ある」は4.8%、<ゲームでお金を使ったこと(ゲーム課金したこと)に後悔したことがある>では「ある」は16.5%となりました。

男女別にみると、経験がある人の割合は、<ゲームでお金を使いすぎて(ゲーム課金しすぎて)生活に困ったことがある>では男性5.8%、女性3.8%と、2.0ポイントの差にとどまったのに対し、<ゲームでお金を使ったこと(ゲーム課金したこと)に後悔したことがある>では男性21.8%、女性11.2%と、10.6ポイントの差が開きました。

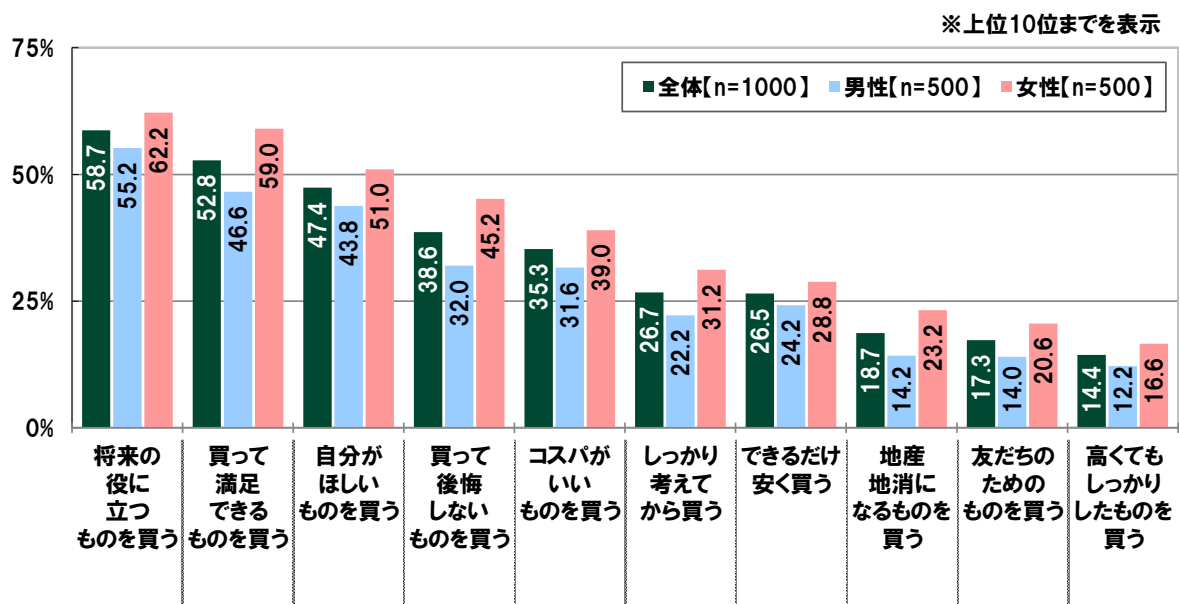


>> 30代・40代が考える“いい買い物” TOP2「将来の役に立つものを買う」「買って満足できるものを買う」

全回答者(1,000名)に、どのような買い物が“いい買い物”だと思うか聞いたところ、「将来の役に立つものを買う」(58.7%)が最も高くなりました。“今だけではなく将来の役にも立つか”ということ意識して買い物をしたほうがよいと考えている人が多いのではないのでしょうか。以降、「買って満足できるものを買う」(52.8%)、「自分がほしいものを買う」(47.4%)、「買って後悔しないものを買う」(38.6%)、「コスパがいいものを買う」(35.3%)が続きました。

男女別にみると、「買って満足できるものを買う」(男性46.6%、女性59.0%)と「買って後悔しないものを買う」(男性32.0%、女性45.2%)は男性と比べて女性のほうが10ポイント以上高くなりました。女性には、買い物の際に、“満足できるか”や“後悔しないか”ということ意識している人が多いようです。

Q.どのような買い物が“いい買い物”だと思うか？（複数回答）

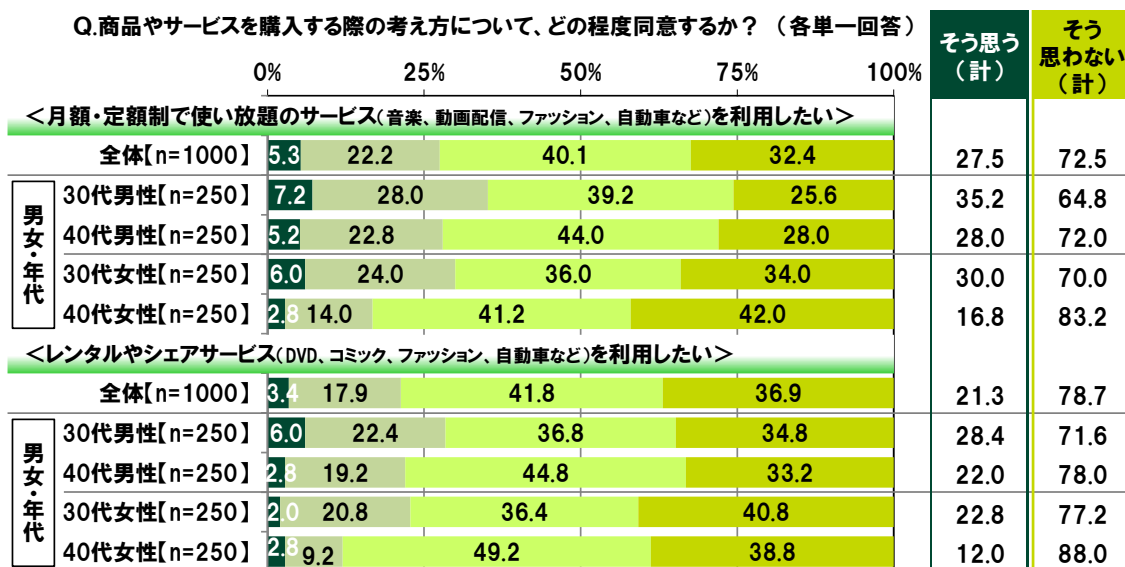


- ▶ 「サブスクサービスを利用したい」30代・40代の27.5%、30代男性では35.2%
- ▶ 「サブスクサービスにお金をかけている」30代・40代の29.1%、前回調査から5.5ポイント上昇
- ▶ 30代・40代がサブスクサービスにかけている金額の全体平均は952円/月、前回調査から260円増加

続いて、全回答者(1,000名)に、月額・定額制で使い放題のサービスであるサブスクリプションサービスや、レンタル・シェアサービスといった、モノを持たない消費について質問しました。

まず、サービスの利用意向を聞いたところ、<月額・定額制で使い放題のサービス(音楽、動画配信、ファッション、自動車など)を利用したい>では『そう思う(計)』は27.5%、<レンタルやシェアサービス(DVD、コミック、ファッション、自動車など)を利用したい>では『そう思う(計)』は21.3%となりました。

男女・年代別に利用意向をみると、<月額・定額制で使い放題のサービス(音楽、動画配信、ファッション、自動車など)を利用したい>では女性と比べて男性のほうが高くなり、30代男性(35.2%)が最も高くなりました。<レンタルやシェアサービス(DVD、コミック、ファッション、自動車など)を利用したい>でも同様の傾向となり、こちらも30代男性(28.4%)が最も高くなりました。

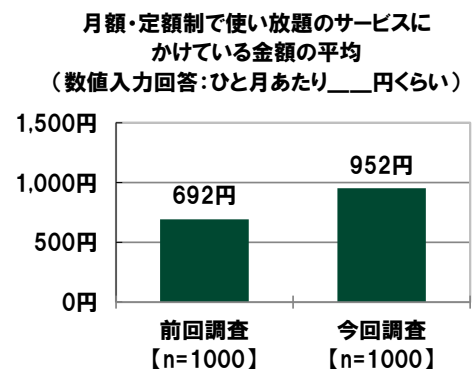
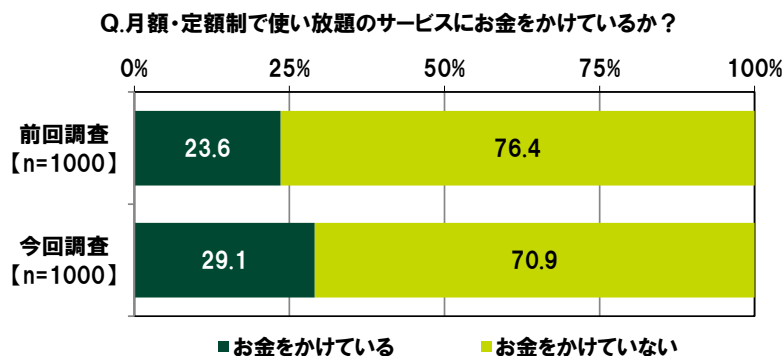


■非常にそう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

次に、サブスクサービスとレンタル・シェアサービスの利用状況を聞きました。

実際に月額・定額制で使い放題のサービスにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は29.1%で、ひと月にかけている金額の全体平均は952円でした。

前回の調査結果と比較すると、実際にお金をかけている人の割合は5.5ポイントの上昇(前回調査23.6%→今回調査29.1%)となり、かけている金額の全体平均は260円の増加(前回調査692円→今回調査952円)となりました。

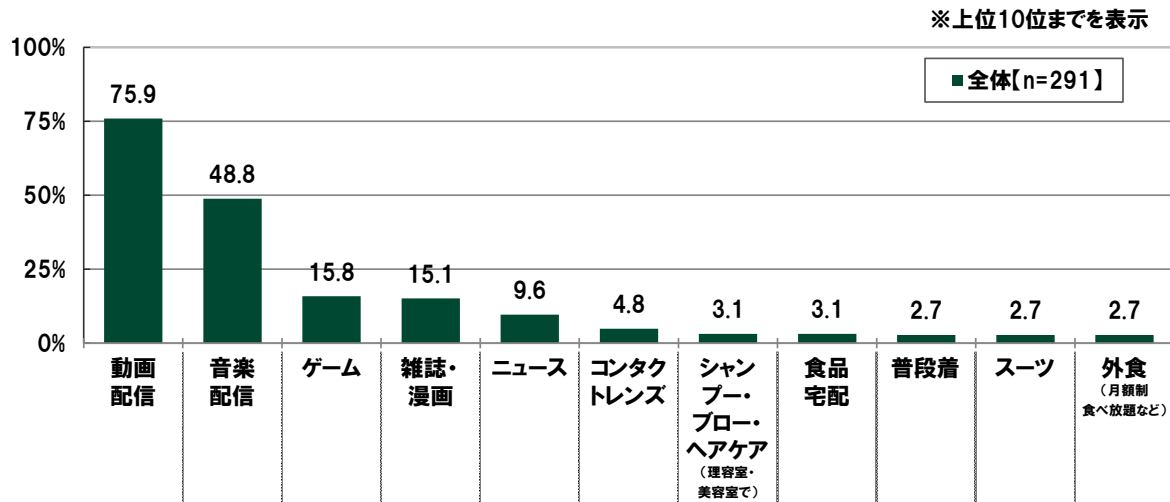




月額・定額制で使い放題のサービスにお金をかけている人(291名)に、利用したことがあるサービスを聞いたところ、「動画配信」(75.9%)が特に高く、次いで、「音楽配信」(48.8%)、「ゲーム」(15.8%)、「雑誌・漫画」(15.1%)、「ニュース」(9.6%)となりました。

Q.これまでに利用したことがある月額・定額制で使い放題のサービスは？（複数回答）

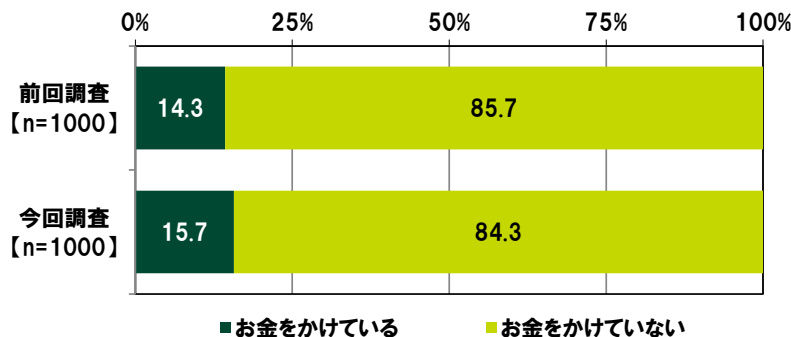
対象：月額・定額制で使い放題のサービスにお金をかけている人



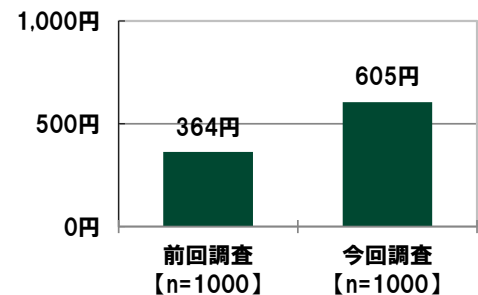
また、実際にレンタル・シェアサービスにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は 15.7%で、ひと月にかけている金額の全体平均は 605 円でした。

前回の調査結果と比較すると、実際にお金をかけている人の割合は 1.4 ポイントの上昇(前回調査 14.3%→今回調査 15.7%)となり、かけている金額の全体平均は 241 円の増加(前回調査 364 円→今回調査 605 円)となりました。サブスクサービスと同様、レンタル・シェアサービスについてもひと月あたりの平均消費額が増加しました。

Q.レンタルやシェアサービスにお金をかけているか？



レンタルやシェアサービスにかけている金額の平均  
(数値入力回答:ひと月あたり\_\_\_円くらい)

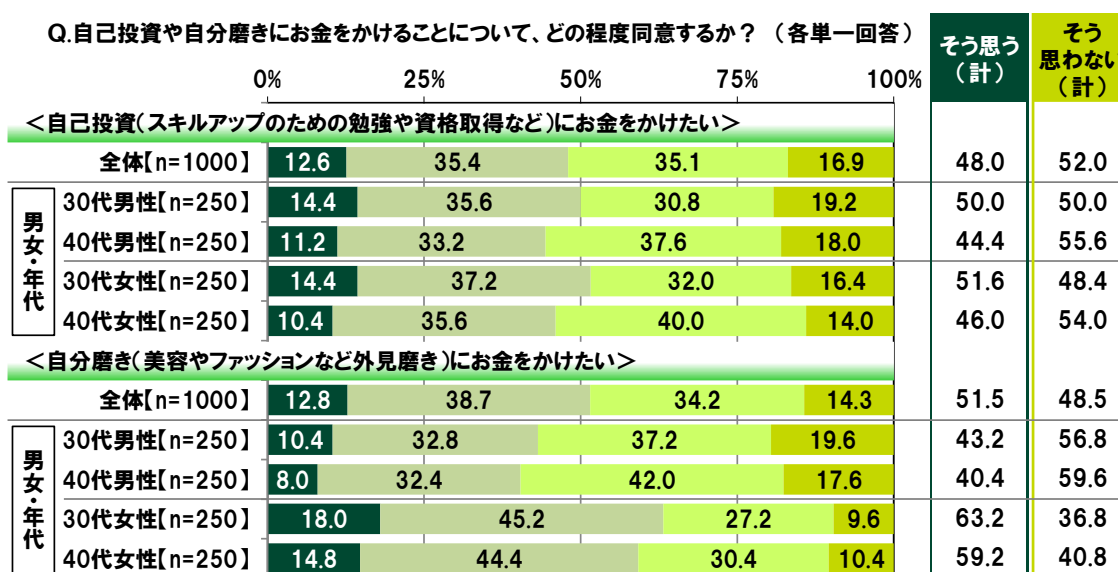


≫ 「自己投資にお金をかけたい」30代・40代の48.0%、「自分磨きにお金をかけたい」30代・40代の51.5%

全回答者(1,000名)に、自己投資や自分磨きについて質問しました。

消費意向を聞いたところ、<自己投資(スキルアップのための勉強や資格取得など)にお金をかけたい>では『そう思う(計)』は48.0%、<自分磨き(美容やファッションなど外見磨き)にお金をかけたい>では『そう思う(計)』は51.5%となりました。

男女・年代別に消費意向をみると、<自己投資(スキルアップのための勉強や資格取得など)にお金をかけたい>では40代と比べて30代のほうが高くなり、30代女性(51.6%)が最も高くなりました。他方、<自分磨き(美容やファッションなど外見磨き)にお金をかけたい>では男性と比べて女性のほうが高くなり、30代女性(63.2%)が最も高くなりました。



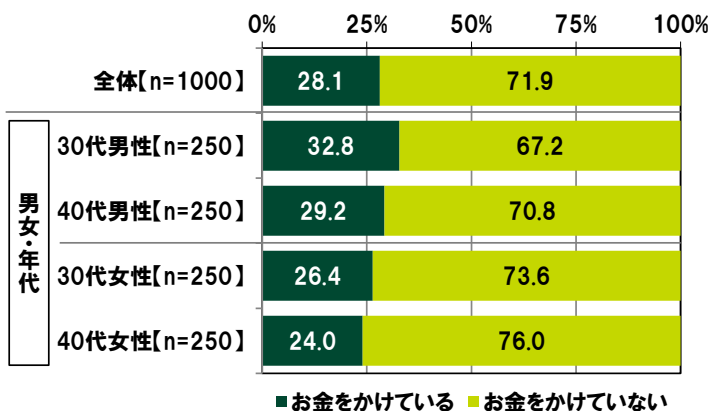
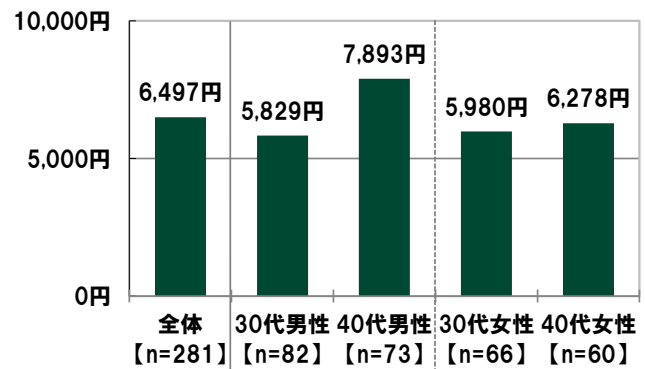
■非常にそう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

- ≫ 「自己投資にお金をかけている」30代・40代の28.1%、かけている金額は平均6,497円/月
- ≫ 「自分磨きにお金をかけている」30代・40代の53.3%、かけている金額は平均7,052円/月

実際に自己投資にお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は28.1%で、それらの人がひと月にかけている金額の平均は6,497円でした。

男女・年代別にみると、お金をかけている人の割合が最も高くなったのは30代男性(32.8%)、ひと月にかけている金額の平均が最も高くなったのは40代男性(7,893円)でした。

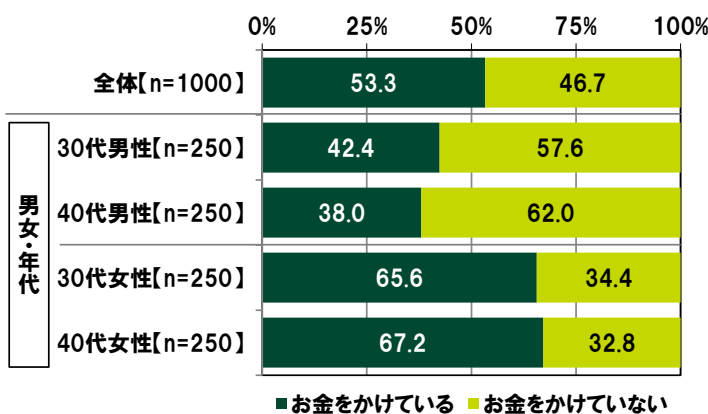
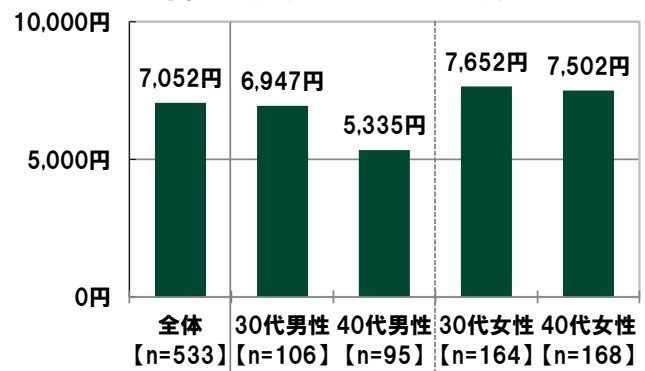
Q.自己投資のためにお金をかけているか？


 自己投資にかけている金額の平均  
 (数値入力回答:ひと月あたり\_\_\_円くらい)  
 対象:この目的にお金をかけている人


同様に、実際に自分磨きにお金をかけているか聞いたところ、お金をかけている人の割合は53.3%で、それらの人がひと月にかけている金額の平均は7,052円でした。

男女・年代別にみると、お金をかけている人の割合が最も高くなったのは40代女性(67.2%)、ひと月にかけている金額の平均が最も高くなったのは30代女性(7,652円)でした。

Q.自分磨きのためにお金をかけているか？

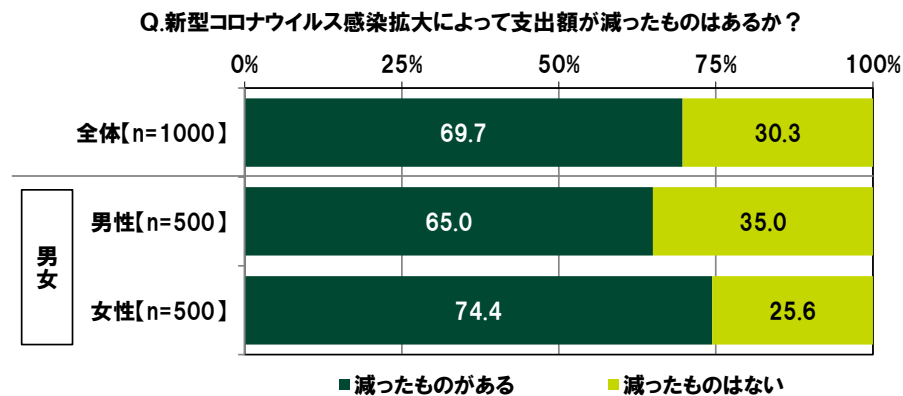
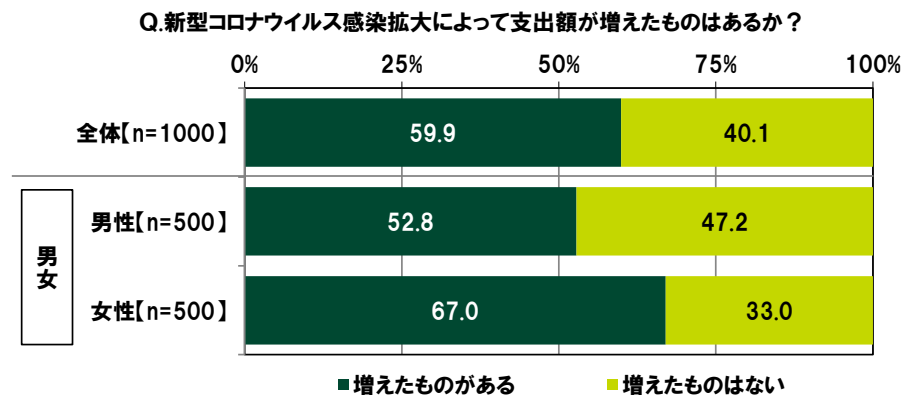

 自分磨きにかけている金額の平均  
 (数値入力回答:ひと月あたり\_\_\_円くらい)  
 対象:この目的にお金をかけている人


- ≫ 「コロナ禍で支出額が増えたものがある」59.9%、支出額が増えたもの TOP2 は「水道光熱費」「食品・飲料費」
- ≫ 「コロナ禍で支出額が減ったものがある」69.7%、支出額が減ったもの TOP2 は「外食費」「旅行・レジャー費」

続いて、コロナ禍による支出額の変化について質問しました。

全回答者(1,000名)に、新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が増えたものがあるか聞いたところ、「増えたものがある」は59.9%、「増えたものはない」は40.1%となりました。他方、支出額が減ったものがあるか聞いたところ、「減ったものがある」は69.7%、「減ったものはない」は30.3%となりました。

男女別にみると、「増えたものがある」と回答した人の割合は男性52.8%、女性67.0%、「減ったものがある」と回答した人の割合は男性65.0%、女性74.4%と、どちらも男性と比べて女性のほうが高くなりました。

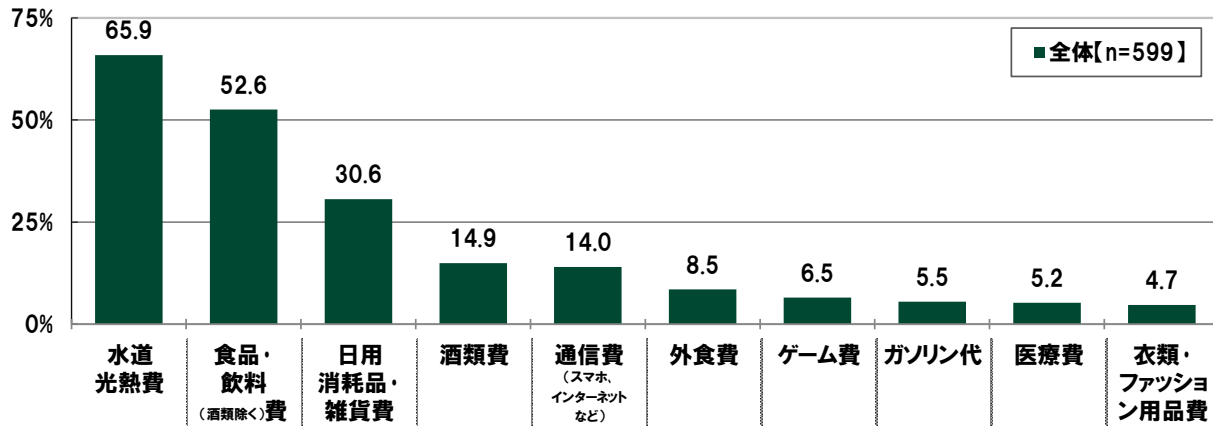


では、どのような支出に変化があったという人が多いのでしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が増えたものがある人(599名)に、支出額が増えたものを聞いたところ、「水道光熱費」(65.9%)が最も高く、次いで、「食品・飲料(酒類除く)費」(52.6%)、「日用消耗品・雑貨費」(30.6%)、「酒類費」(14.9%)、「通信費(スマホ、インターネットなど)」(14.0%)となりました。

Q.新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が増えたものは？(複数回答)  
対象:新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が増えたものがある人

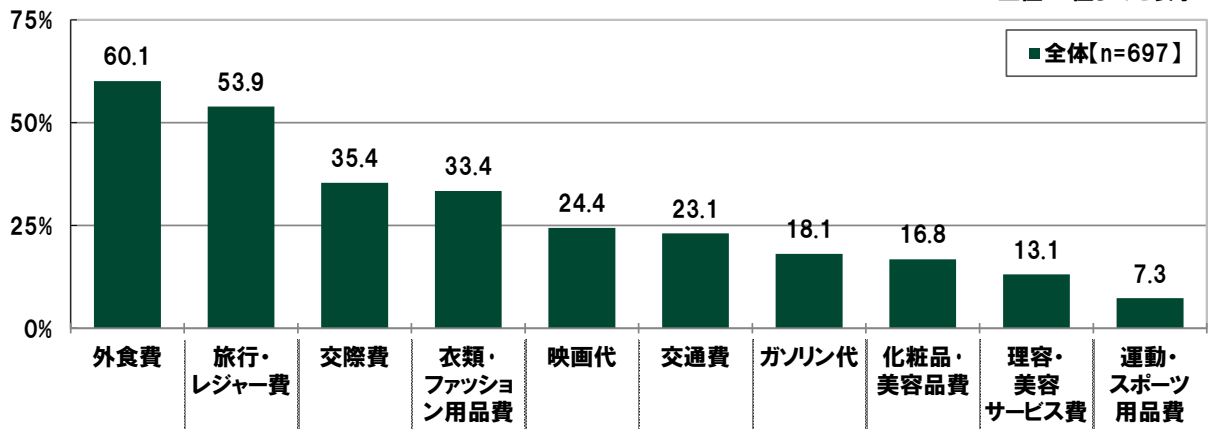
※上位10位までを表示



他方、新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が減ったものがある人(697名)に、支出額が減ったものを聞いたところ、「外食費」(60.1%)と「旅行・レジャー費」(53.9%)が特に高く、以降、「交際費」(35.4%)、「衣類・ファッション用品費」(33.4%)、「映画代」(24.4%)が続きました。

Q.新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が減ったものは？(複数回答)  
対象:新型コロナウイルス感染拡大によって支出額が減ったものがある人

※上位10位までを表示



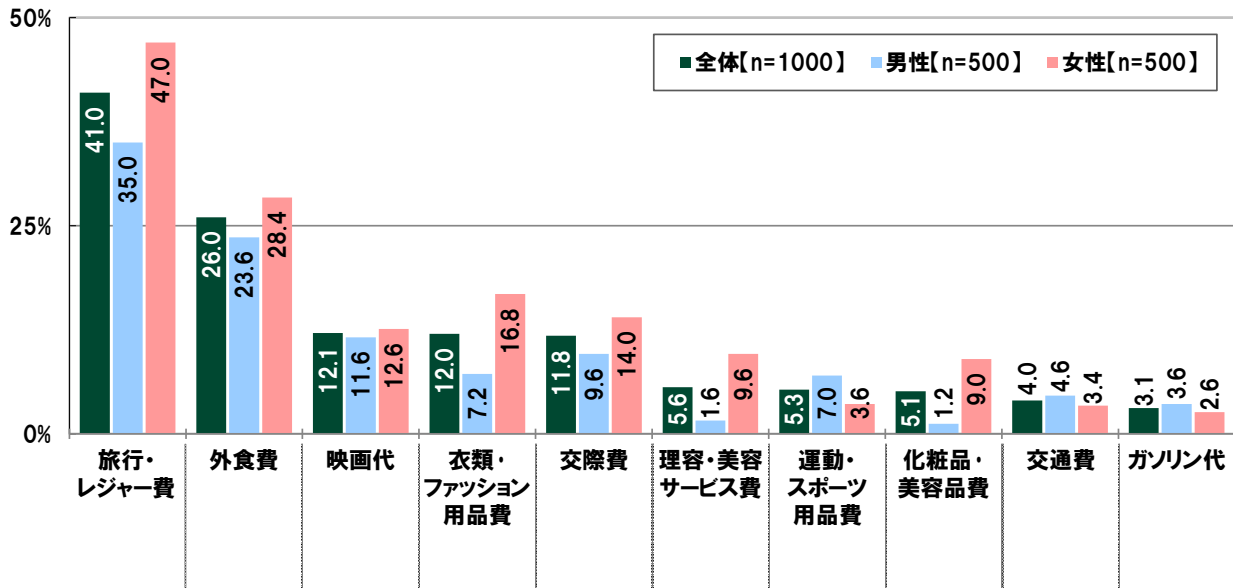
≫ コロナ禍が落ち着いたら支出額を増やしたいもの「旅行・レジャー費」がダントツ

また、全回答者(1,000名)に、コロナ禍が落ち着いたら支出額を増やしたいと思うものを聞いたところ、「旅行・レジャー費」(41.0%)が最も高く、次いで、「外食費」(26.0%)、「映画代」(12.1%)、「衣類・ファッション用品費」(12.0%)、「交際費」(11.8%)となりました。

男女別にみると、「旅行・レジャー費」は男性 35.0%、女性 47.0%と、男性と比べて女性のほうが 12.0 ポイント高くなり、コロナ禍後に向けた女性の旅行・レジャー意欲の高さがうかがい知れる結果となりました。

Q.コロナ禍が落ち着いたら支出額を増やしたいと思うものは？（複数回答）

※上位10位までを表示



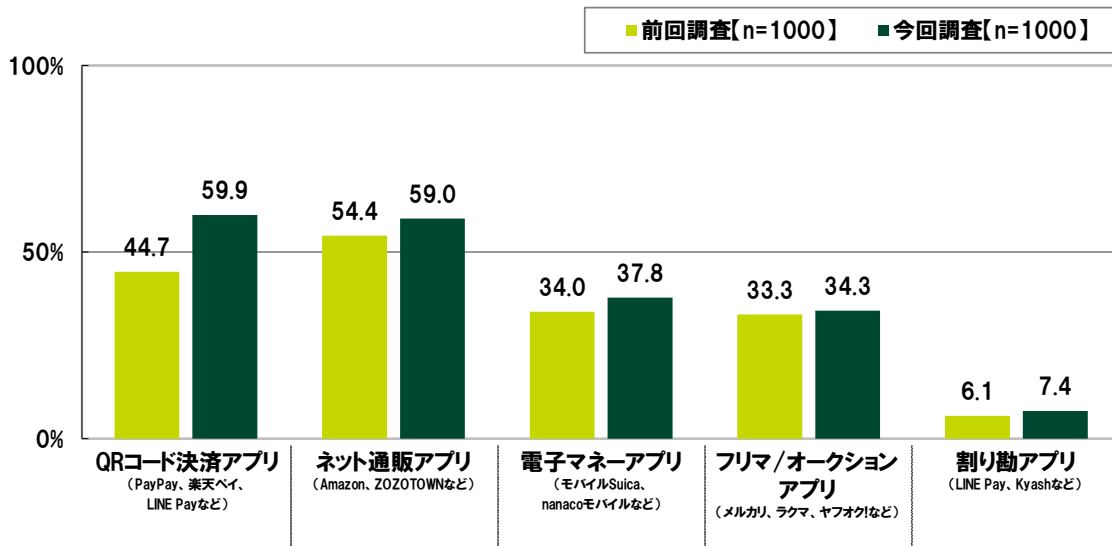
>> 30代・40代のキャッシュレス決済利用実態 「QRコード決済」の使用率は59.9%、前回調査から15.2ポイント上昇

コロナ禍以降、感染症対策としてキャッシュレス決済やネット通販の利用が推奨されています。全回答者(1,000名)に、支払いや買い物に関するアプリの使用状況について聞きました。

使用率(「現在使っている」と回答した人の割合)をみると、「QRコード決済アプリ(PayPay、楽天ペイ、LINE Payなど)」は59.9%、「ネット通販アプリ(Amazon、ZOZOTOWNなど)」は59.0%、「電子マネーアプリ(モバイルSuica、nanacoモバイルなど)」は37.8%、「フリマ/オークションアプリ(メルカリ、ラクマ、ヤフオク!など)」は34.3%、「割り勘アプリ(LINE Pay、Kyashなど)」は7.4%でした。

前回の調査結果と比較すると、使用率が最も上昇したのは「QRコード決済アプリ(PayPay、楽天ペイ、LINE Payなど)」で、前回調査44.7%→今回調査59.9%と、15.2ポイントの上昇となりました。

支払いや買い物に関するアプリの使用率の変化



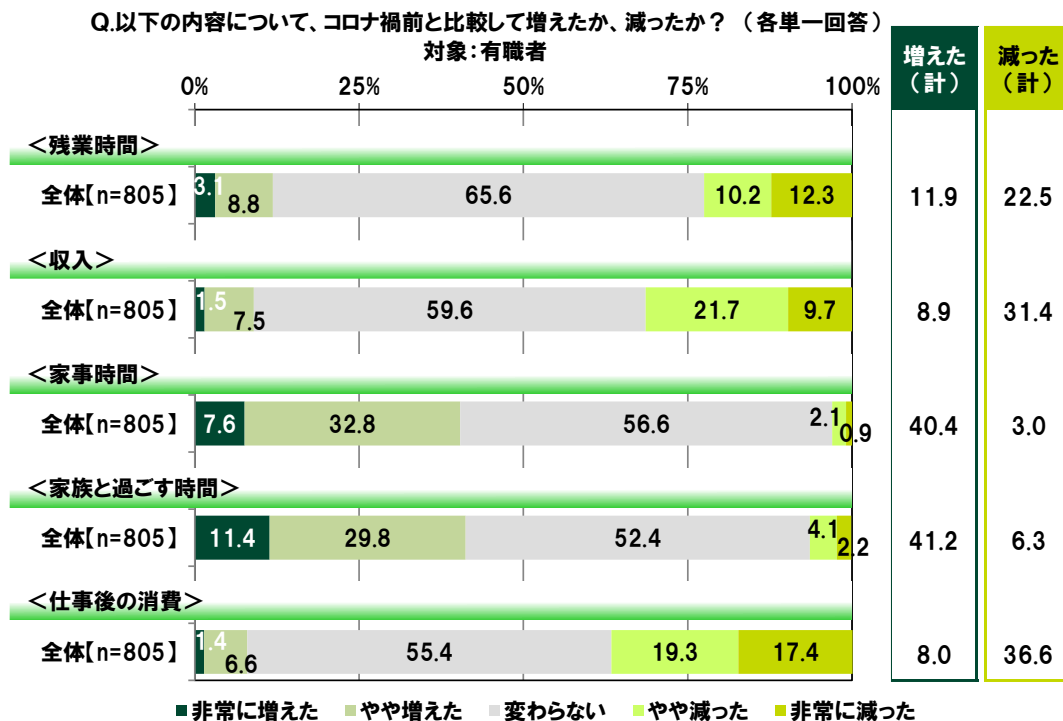
**【コロナ禍と収入事情】**

- ≫ 「コロナ禍前より残業時間が減った」30代・40代有職者の22.5%、「収入が減った」では31.4%
- ≫ 「コロナ禍前より家事時間が増えた」30代・40代有職者の40.4%
- ≫ アフター5消費の冷え込み鮮明「コロナ禍前より仕事後の消費が減った」30代・40代有職者の36.6%

有職者(805名)に、残業時間や収入、時間の使い方、仕事後の消費について、コロナ禍前からの変化を聞いたところ、<残業時間>では「非常に増えた」は3.1%、「やや増えた」は8.8%で、合計した『増えた(計)』は11.9%、「非常に減った」は12.3%、「やや減った」は10.1%で、合計した『減った(計)』は22.5%となり、<収入>では『増えた(計)』は8.9%、『減った(計)』は31.4%となりました。

時間の使い方についてみると、<家事時間>では『増えた(計)』は40.4%、<家族と過ごす時間>では『増えた(計)』は41.2%となりました。

また、<仕事後の消費>では『減った(計)』は36.6%となりました。コロナ禍以降、仕事後に会食や買い物などの予定を入れる人が減少したのではないのでしょうか。



\*『増えた(計)』または『減った(計)』の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と一致しない場合があります。

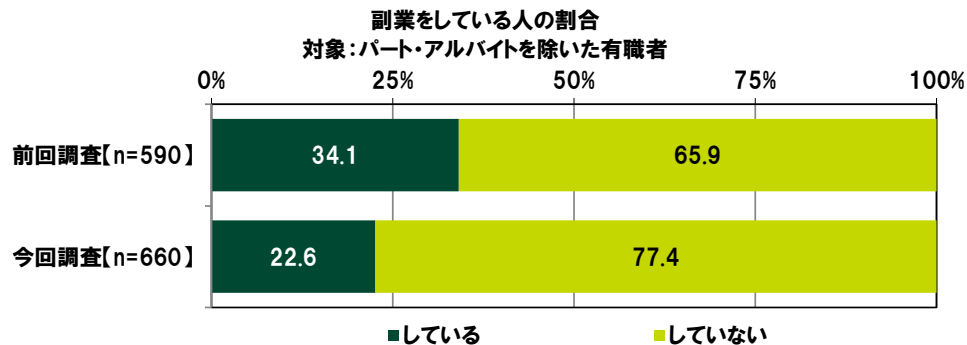


>> コロナ禍で副業機会が減少「副業をしている」30代・40代有職者の22.6%、前回調査から11.5ポイント下降

次に、副業実態について質問しました。

パート・アルバイトを除いた有職者(660名)に、副業をしているか聞いたところ、「している」は22.6%、「していない」は77.4%となりました。

前回の調査結果と比較すると、副業をしている人の割合は、前回調査 34.1%→今回調査 22.6%と、11.5ポイントの大幅下降となりました。コロナ禍のため、副業の機会が減ったという人が増えたのではないのでしょうか。



副業をしている人(149名)に、副業で、ひと月にいくらかの収入を得ているか聞いたところ、収入額の平均は7.9万円でした。

前回の調査結果と比較すると、収入額の平均は前回調査 7.7万円→今回調査 7.9万円と、ほぼ横ばいとなりました。

**副業で、ひと月に得ている収入額の平均(単一回答)**  
 対象：パート・アルバイトを除いた有職者のうち、副業をしている人

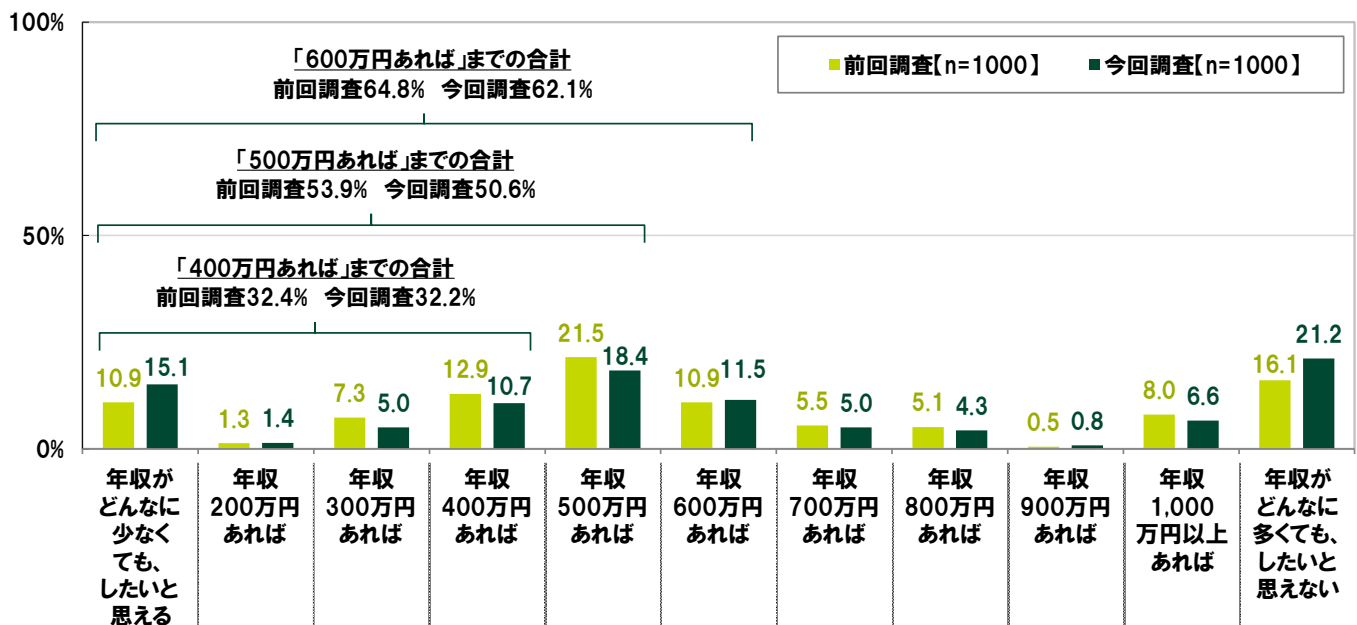


**【ライフイベントと収入事情】**
**≫ 30代・40代の半数以上が結婚しようと思えるのは「年収500万円」**

ライフイベントと年収の関係について質問しました。

全回答者(1,000名)に、結婚しようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収400万円以下でしようと思える割合(「年収400万円あれば」までの合計)は32.2%、年収500万円以下でしようと思える割合(「年収500万円あれば」までの合計)は50.6%、年収600万円以下でしようと思える割合(「年収600万円あれば」までの合計)は62.1%となりました。

前回の調査結果と比較すると、年収500万円以下で結婚しようと思える割合は、前回調査53.9%→今回調査50.6%と、3.3ポイントの下降となりました。また、「年収がどんなに多くても、したいと思えない」と回答した人の割合は、前回調査16.1%→今回調査21.2%と、5.1ポイントの上昇となり、年収に関係なく結婚に消極的な人が増加する結果となりました。

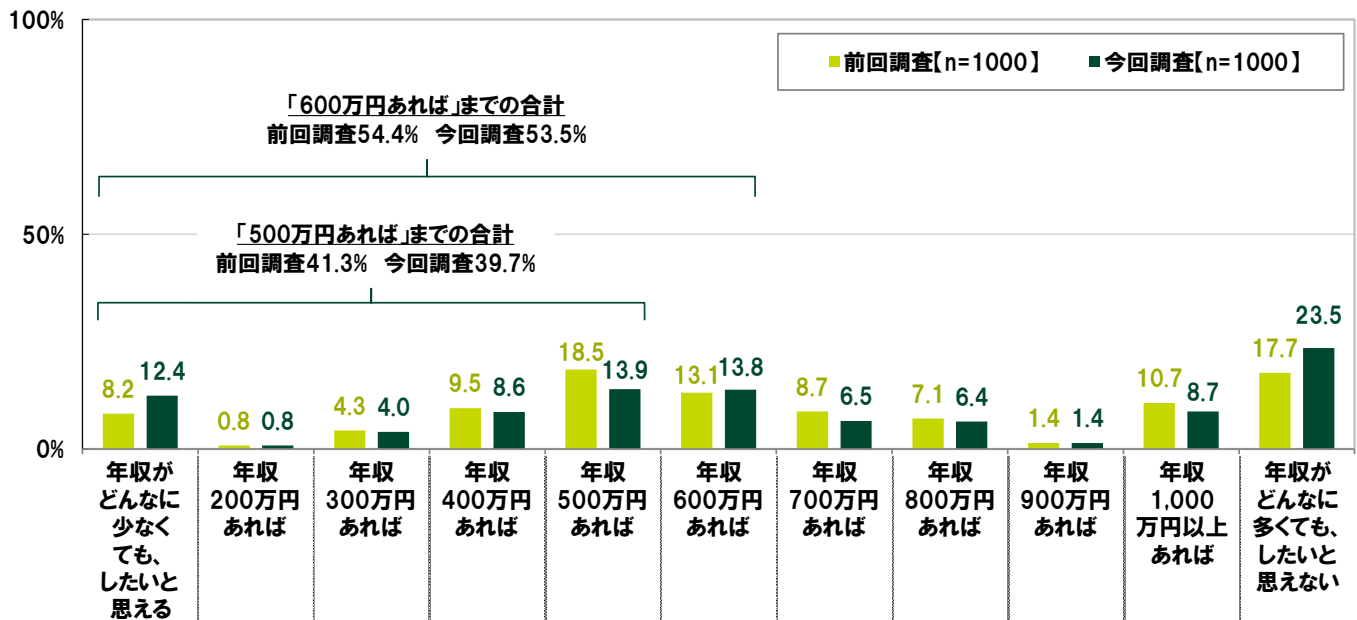
**Q.結婚しようと思える年収(世帯年収)は？(単一回答)**


- >> 30代・40代の半数以上が1人目の出産・子育てに前向きになるのは「年収600万円」
- >> 「年収がどんなに多くても、出産・子育てをしたいと思えない」30代・40代の23.5%、前回調査から5.8ポイント上昇

次に、出産・子育て(1人)しようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収500万円以下でしようと思える割合は39.7%、年収600万円以上でしようと思える割合は53.5%となりました。

前回の調査結果と比較すると、「年収がどんなに多くても、したいと思えない」と回答した人の割合は、前回調査17.7%→今回調査23.5%と、5.8ポイントの上昇となり、年収に関係なく1人目の出産・子育てに消極的な人が増加する結果となりました。

Q.出産・子育て(1人)しようと思える年収(世帯年収)は？(単一回答)

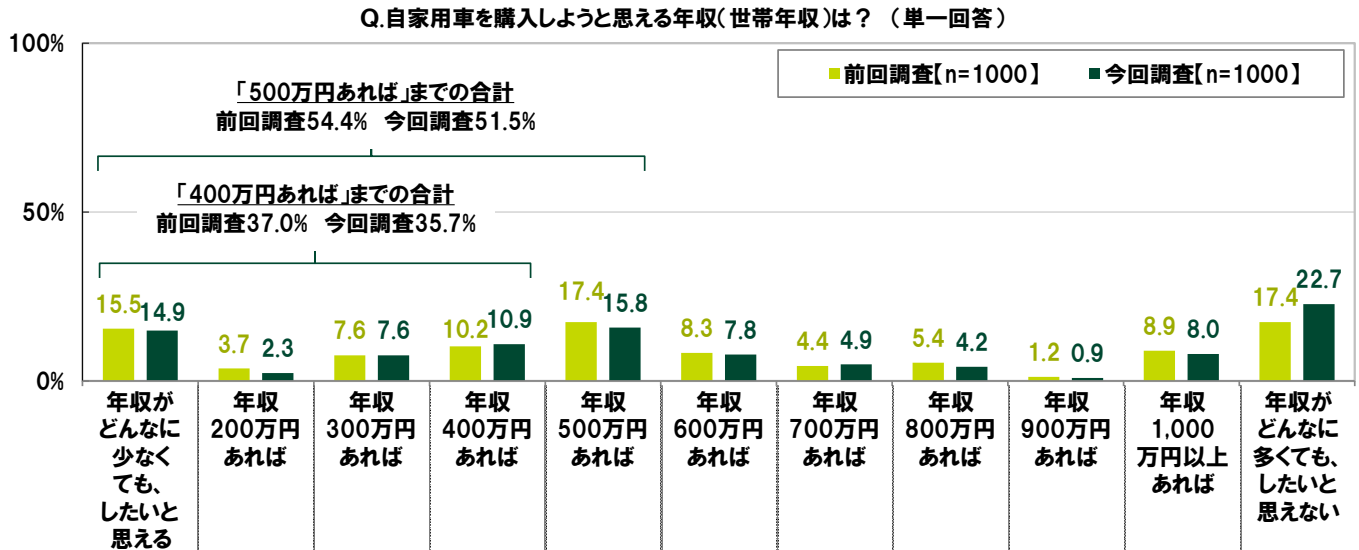


➤ 30代・40代の半数以上が自家用車を購入しようと思えるのは「年収 500万円」

自家用車や住宅の購入についても質問しました。

自家用車を購入しようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収 400 万円以上と思える割合は 35.7%、年収 500 万円以上と思える割合は 51.5%となりました。

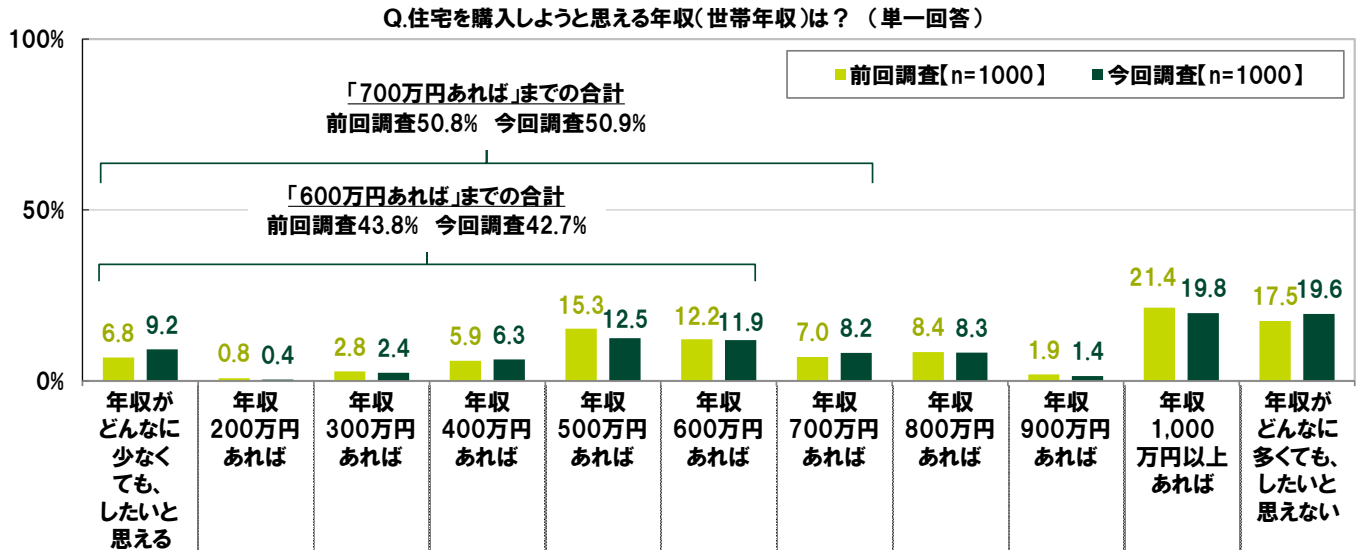
前回の調査結果と比較すると、年収 500 万円以上で自家用車を購入しようと思える割合は、前回調査 54.4%→今回調査 51.5%と、2.9 ポイントの下降となりました。



>> **30代・40代の半数以上が住宅を購入しようと思えるのは「年収700万円」**

また、住宅を購入しようと思える世帯年収額を聞いたところ、年収600万円以下でしようと思える割合は42.7%、年収700万円以下でしようと思える割合は50.9%となりました。

前回の調査結果と比較すると、「年収がどんなに少なくても、したいと思える」と回答した人の割合は、前回調査6.8%→今回調査9.2%と、2.4ポイントの上昇となり、年収に関係なくマイホーム購入に積極的な人が増加する結果となりました。



**【就業意識と収入】**

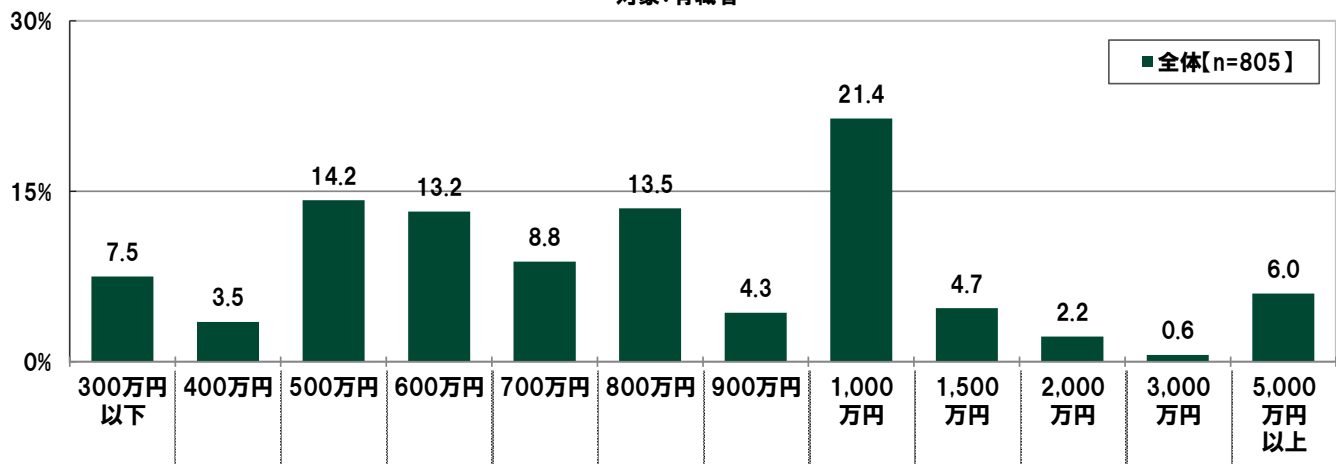
- ≫ 40代有職男性が管理職になってもいいと思える年収は平均1,042万円、前回調査から81万円減少
- ≫ 40代有職女性が管理職になってもいいと思える年収は平均998万円、前回調査から247万円の大幅増加

働き方や年収の希望について質問しました。

有職者(805名)に、管理職になってもいいと思える年収を聞いたところ、「1,000万円」(21.4%)に最も多くの回答が集まり、平均は1,033万円でした。

前回の調査結果と比較すると、管理職になってもいいと思える年収の平均は、男性では30代は156万円減少(前回調査1,277万円→今回調査1,121万円)、40代は81万円減少(前回調査1,123万円→今回調査1,042万円)したのに対し、女性では30代は83万円増加(前回調査863万円→今回調査946万円)、40代は247万円増加(前回調査751万円→今回調査998万円)しており、男女で対照的な意識の変化がみられる結果となりました。

Q.管理職になってもいいと思える年収は？(単一回答)  
対象:有職者



管理職になってもいいと思える年収の平均の変化  
対象:有職者

		0万円	500万円	1,000万円	1,500万円	
男女・年代	全体	前回調査 [n=768]		1,033万円		
		今回調査 [n=805]		1,033万円		
	30代男性	前回調査 [n=219]			1,277万円	
		今回調査 [n=221]			1,121万円	
	40代男性	前回調査 [n=225]			1,123万円	
		今回調査 [n=233]			1,042万円	
	30代女性	前回調査 [n=154]		863万円		
		今回調査 [n=177]		946万円		
40代女性	前回調査 [n=170]		751万円			
	今回調査 [n=174]		998万円			

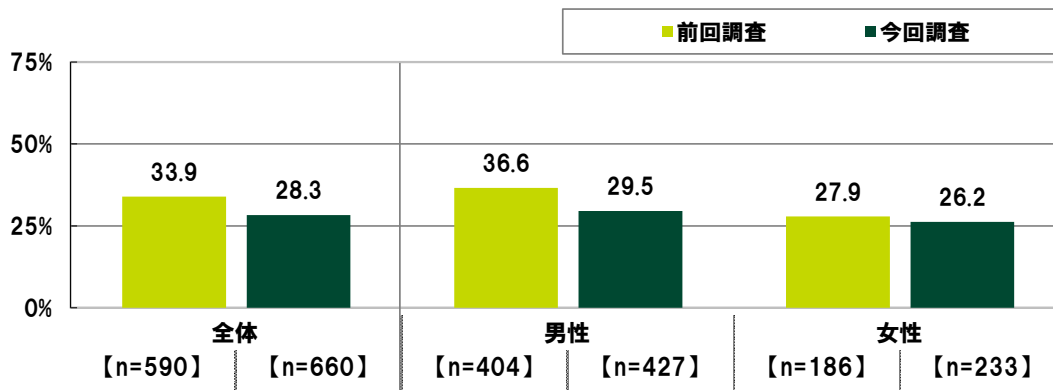
- ≫ 「いつかはフリーランスとして働きたい」30代・40代有職男性の29.5%、前回調査から7.1ポイント下降
- ≫ 「いつかは転職したい」30代・40代有職女性の49.4%、前回調査から8.1ポイント下降

次に、パート・アルバイトを除いた有職者(660名)に、将来の働き方や転職意向について、自身の希望にどの程度あてはまるか聞きました。

いつかはフリーランスとして働きたいと考えている人の割合(「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合の合計、以下同様)は28.3%、男性では29.5%、女性では26.2%となりました。

前回の調査結果と比較すると、フリーランスとして働きたいと考えている人の割合は、男性では7.1ポイント下降(前回調査36.6%→今回調査29.5%)、女性では1.7ポイント下降(前回調査27.9%→今回調査26.2%)しました。

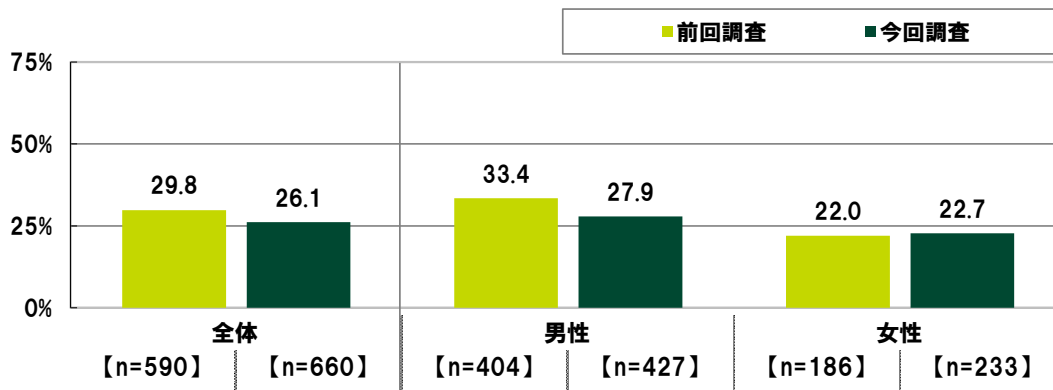
いつかはフリーランスとして働きたいと考えている人の割合の変化  
対象：パート・アルバイトを除いた有職者



いつかは起業したいと考えている人の割合は26.1%、男性では27.9%、女性では22.7%となりました。

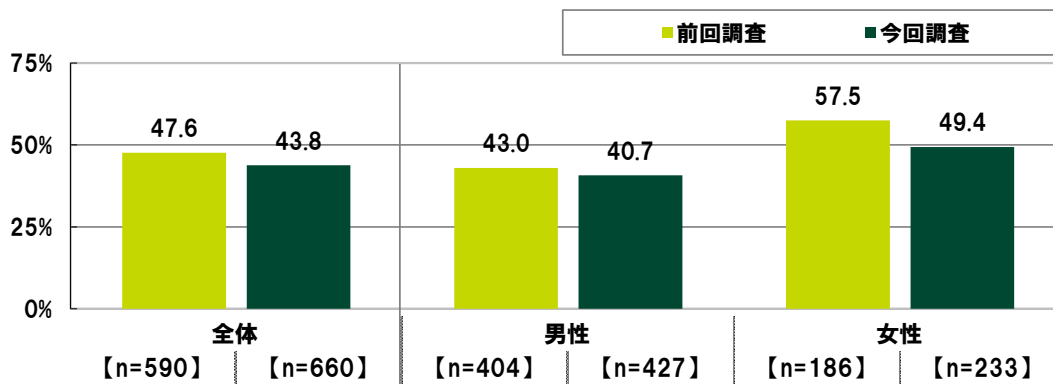
前回の調査結果と比較すると、起業したいと考えている人の割合は、男性では5.5ポイント下降(前回調査33.4%→今回調査27.9%)した一方、女性では0.7ポイント上昇(前回調査22.0%→今回調査22.7%)しました。フリーランスや起業家として働くことに対して前向きに考えている男性は減っているようです。

いつかは起業したいと考えている人の割合の変化  
対象：パート・アルバイトを除いた有職者



また、いつかは転職したいと考えている人の割合は 43.8%、男性では 40.7%、女性では 49.4%となりました。  
 前回の調査結果と比較すると、転職したいと考えている人の割合は、男性では 2.3 ポイント下降(前回調査 43.0% →今回調査 40.7%)、女性では 8.1 ポイント下降(前回調査 57.5% →今回調査 49.4%)しました。

いつかは転職したいと考えている人の割合の変化  
 対象：パート・アルバイトを除いた有職者





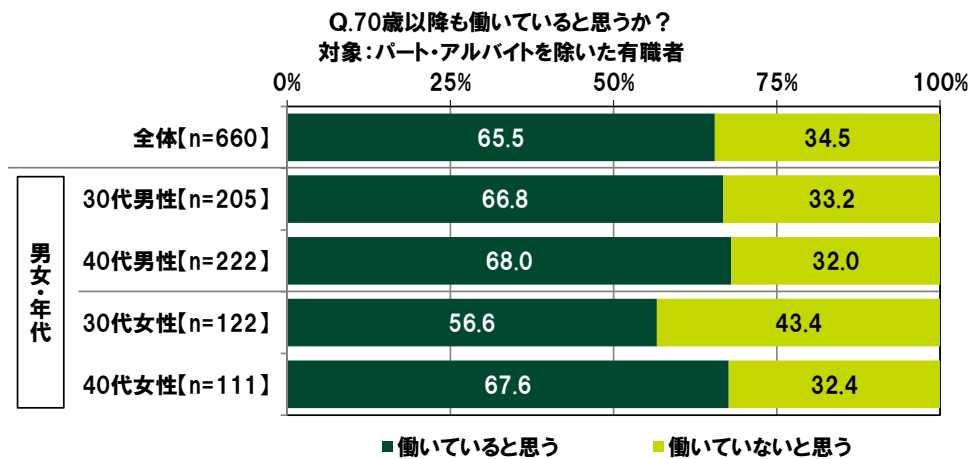
≫ 「70歳以降も働いていると思う」30代・40代有職者の65.5%

働いていると思う理由 1位「経済的にゆとりのある生活をしたい」「働かないと生活費が足りないと思う」

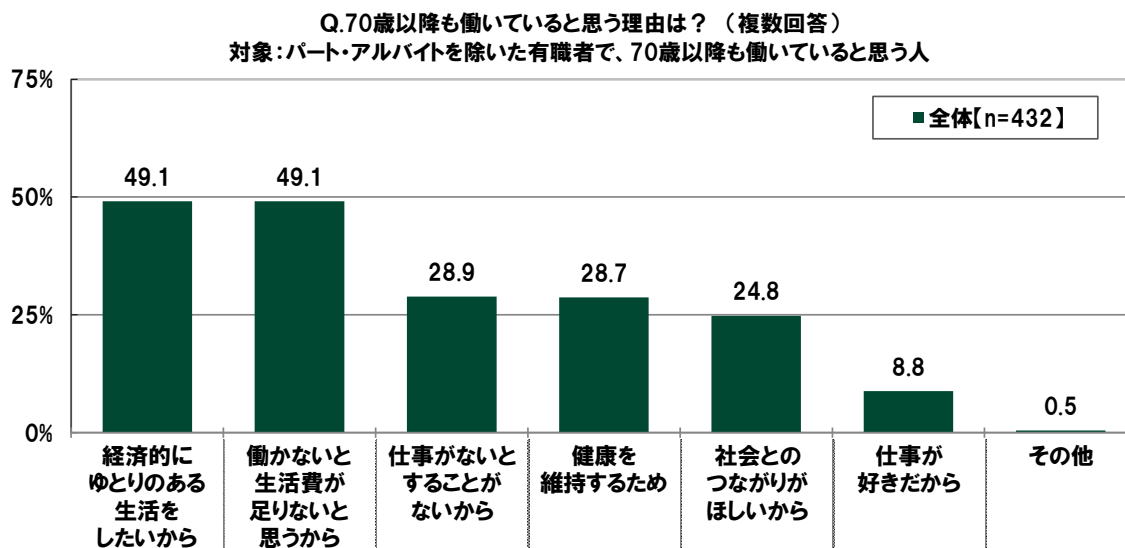
次に、70歳以降の就労について質問しました。

パート・アルバイトを除いた有職者(660名)に、70歳以降も働いていると思うか聞いたところ、「働いていると思う」は65.5%、「働いていないと思う」は34.5%となりました。

男女・年代別にみると、「働いていると思う」と回答した人の割合は、男性では30代66.8%、40代68.0%と大きな差はみられませんでした。女性では30代56.6%、40代67.6%と11.0ポイントの差がみられました。



70歳以降も働いていると思う人(432名)に、そのように思う理由を聞いたところ、「経済的にゆとりのある生活をしたいから」と「働かないと生活費が足りないと思うから」(いずれも49.1%)が最も高く、次いで、「仕事がないとすることがないから」(28.9%)、「健康を維持するため」(28.7%)、「社会とのつながりがほしいから」(24.8%)となりました。



**【マネートラブルの経験】**

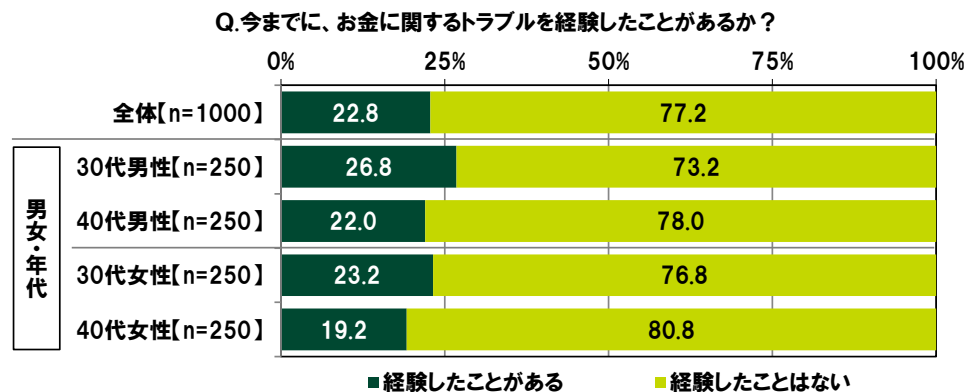
≫ 「今までに、マネートラブルを経験したことがある」30代・40代の22.8%、30代男性では26.8%

**経験したマネートラブル 1位「同僚や知人とお金の貸し借りでもめた」「職場や外出先でお金を盗まれた」**

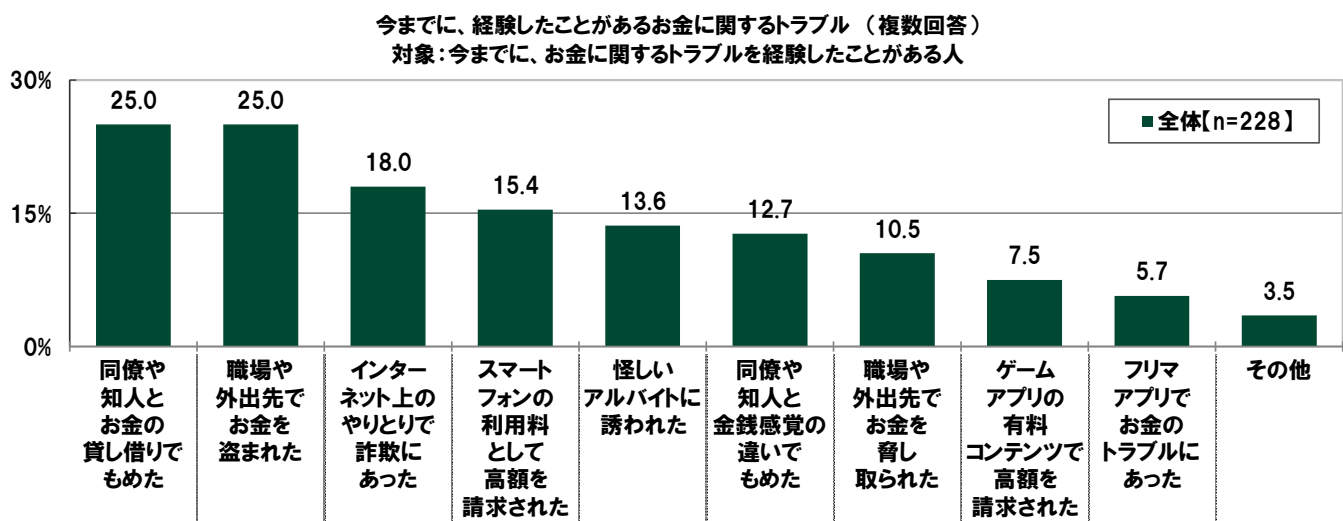
最後に、マネートラブルについて質問しました。

全回答者(1,000名)に、今までに、お金に関するトラブルを経験したことがあるか聞いたところ、「経験したことがある」は22.8%、「経験したことはない」は77.2%となりました。

男女・年代別にみると、「経験したことがある」と回答した人の割合は、30代男性(26.8%)が最も高くなりました。



今までに、お金に関するトラブルを経験したことがある人(228名)に、トラブルの内容を聞いたところ、「同僚や知人とお金の貸し借りでもめた」と「職場や外出先でお金を盗まれた」(いずれも25.0%)が最も高くなりました。お金の貸し借りが原因となって身近な人とトラブルになったという経験や、お金の盗難被害にあったという経験をした人が多いようです。次いで、「インターネット上のやりとりで詐欺にあった」(18.0%)、「スマートフォンの利用料として高額を請求された」(15.4%)、「怪しいアルバイトに誘われた」(13.6%)となりました。

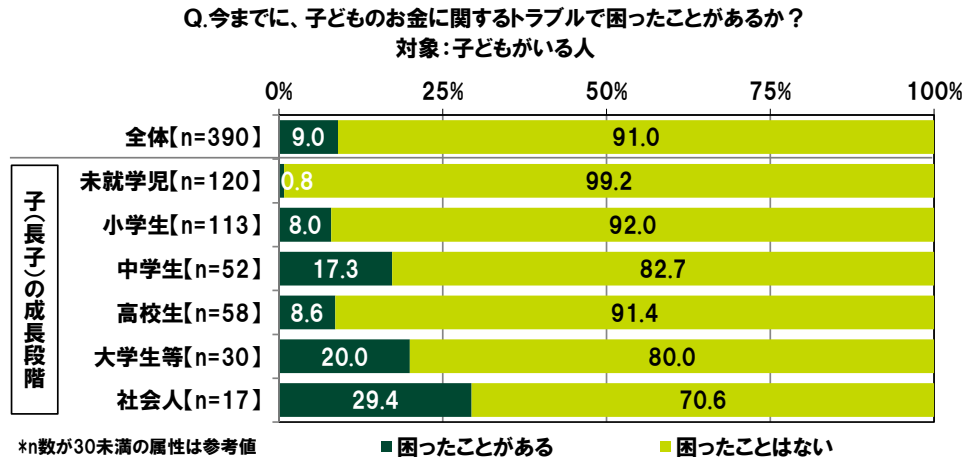


>> 「今までに、子どものマネートラブルで困ったことがある」親の 9.0%

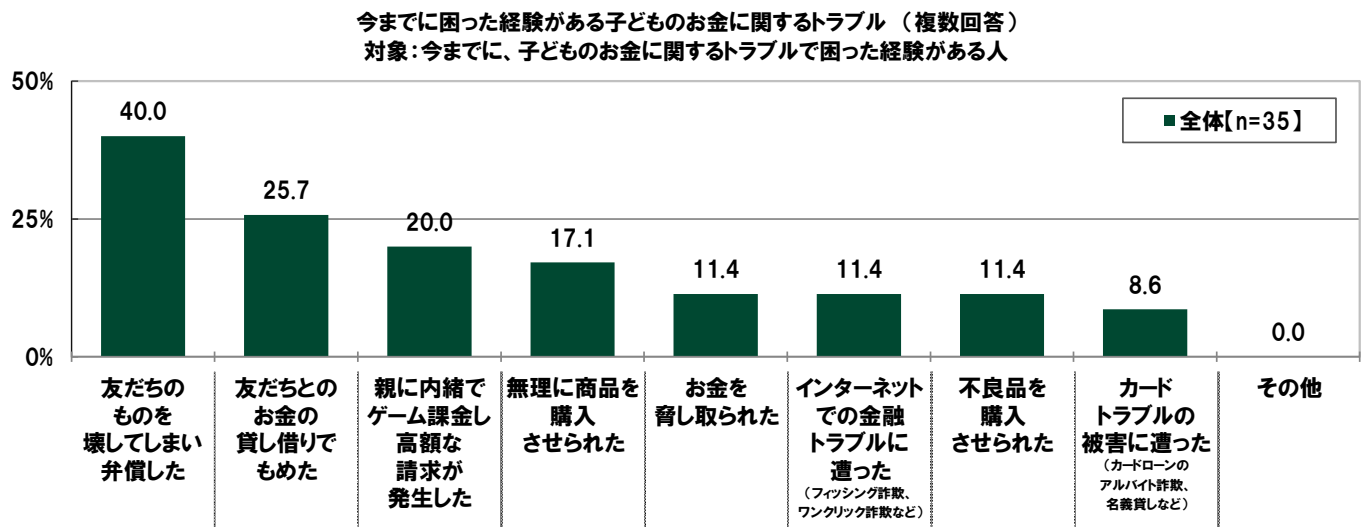
経験した子どものマネートラブル TOP2「友だちのものを壊してしまい弁償した」「友だちとのお金の貸し借りでもめた」

また、子どもがいる人(390名)に、今までに、子どものお金に関するトラブルで困ったことがあるか聞いたところ、「困ったことがある」は9.0%、「困ったことはない」は91.0%となりました。

子ども(長子)の成長段階別にみると、「困ったことがある」と回答した人の割合は、大学生等(大学生、短大生、専門学校生、浪人生)の親では20.0%と最も高くなりました。



今までに、子どものお金に関するトラブルで困った経験がある人(35名)に、その内容を聞いたところ、「友だちのものを壊してしまい弁償した」(40.0%)が最も高くなりました。友だちが持っていたものを不注意で壊してしまったために、子どもの代わりに弁償することになったという経験をした人が多いようです。以降、「友だちとのお金の貸し借りでもめた」(25.7%)、「親に内緒でゲーム課金し高額な請求が発生した」(20.0%)、「無理に商品を購入させられた」(17.1%)、「お金を脅し取られた」「インターネットでの金融トラブルに遭った(フィッシング詐欺、ワンクリック詐欺など)」(11.4%)、「不良品を購入させられた」(11.4%)、「カードトラブルの被害に遭った(カードローンのアルバイト詐欺、名義貸しなど)」(8.6%)、「その他」(0.0%)が続きました。



≫ 子どもに金融教育で学んでほしいこと「お金の大切さ」がダントツ、2位「生活設計」3位「お金の役割」

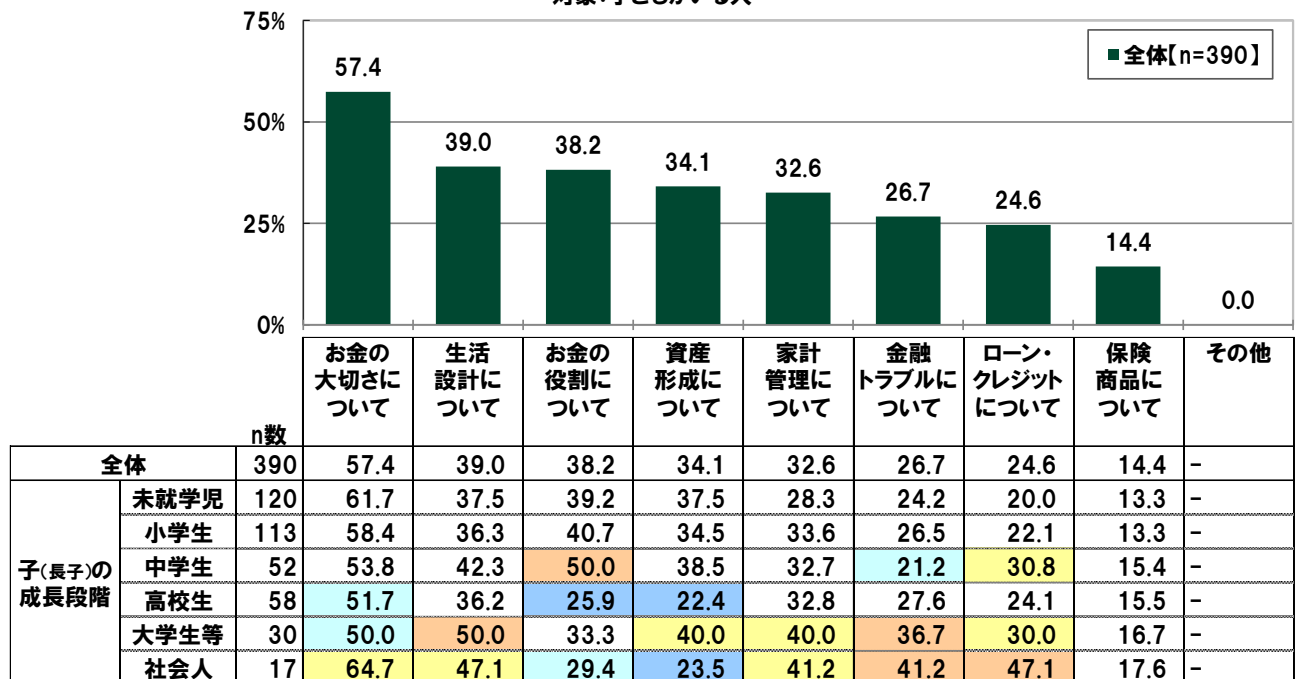
トラブルにあわないようにするには、金融リテラシーを身につけておくことが大切です。

子どもがいる人(390名)に、子どもに、金融教育でどのようなことを学んでほしいか聞いたところ、「お金の大切さについて」(57.4%)が最も高くなりました。お金の大切さを学ぶことで、正しい金銭感覚を養うことができると考えている親が多いのではないのでしょうか。以降、「生活設計について」(39.0%)、「お金の役割について」(38.2%)、「資産形成について」(34.1%)、「家計管理について」(32.6%)が続きました。

子ども(長子)の成長段階別にみると、中学生では「お金の役割について」(50.0%)、大学生等では「生活設計について」(50.0%)と「金融トラブルについて」(36.7%)が他の層と比べて高くなる傾向がみられました。

Q.子どもに、金融教育でどのようなことを学んでほしいか？（複数回答）

対象：子どもがいる人



\*n数が30未満の属性は参考値

■ 全体比+10pt以上 / ■ 全体比+5pt以上 / ■ 全体比-5pt以下 / ■ 全体比-10pt以下 (%)

## 《調査概要》

- ◆調査タイトル : 30代・40代の金銭感覚についての意識調査 2021
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする  
30歳～49歳の男女
- ◆調査期間 : 2021年2月3日～4日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル

(内訳)	30代前半	30代後半	40代前半	40代後半
男性	125	125	125	125
女性	125	125	125	125

- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

## ■■報道関係の皆様へ■■

本リリースの内容の転載にあたりましては、  
「SMBC コンシューマーファイナンス調べ」と付記のうえ、  
ご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

## ■■本調査に関するお問合せ窓口■■

SMBC コンシューマーファイナンス株式会社

担当 : 広報 CSR 部 西山・三浦

TEL : 03-3543-7360

Eメール : corporate\_info@smbc-cf.com

受付時間 : 9時00分～18時00分(月～金)

## ■■会社概要■■

会社名 : SMBC コンシューマーファイナンス株式会社

(英訳名 SMBC Consumer Finance Co., Ltd.)

設立 : 1962年(昭和37年)3月20日

代表者名 : 金子 良平

所在地 : 東京都中央区銀座四丁目12番15号

事業内容 : 貸金業・保証業